

3.2 緑被地別分類

○市全域の傾向

- ・緑被率についてみると、市全域では1987年～2006年の22年間で4ポイント減少している。
- ・区分別にみると、樹林地は1984年～1995年にかけて減少しているが、1995年～2006年にかけて一貫して増加しており、山地の樹林地が保全されていることがうかがえる。
- ・一方、農地と草地では2001年～2006年にかけての減少が著しく、平地部での市街化が進んでいることがうかがえる。
- ・その他については1984年～1995年にかけての増加が大きく、その後は緩やかに減少している。

表 3.10 緑被地別の変遷(市全域)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地(ha)	25,499	22,785	23,283	24,121	▲ 1,378
草地(ha)	2,324	2,184	2,452	1,963	▲ 361
農地(ha)	2,740	2,774	2,624	2,508	▲ 232
水域(ha)	1,919	1,552	1,262	1,097	▲ 821
その他(ha)	16,640	19,827	19,503	19,432	2,792
合計(ha)	49,123	49,123	49,123	49,123	
緑被面積(ha)	30,564	27,744	28,358	28,593	
	(32483)	(29296)	(29620)	(29690)	
緑被率(%)	62%	56%	58%	58%	
	(66%)	(60%)	(60%)	(60%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

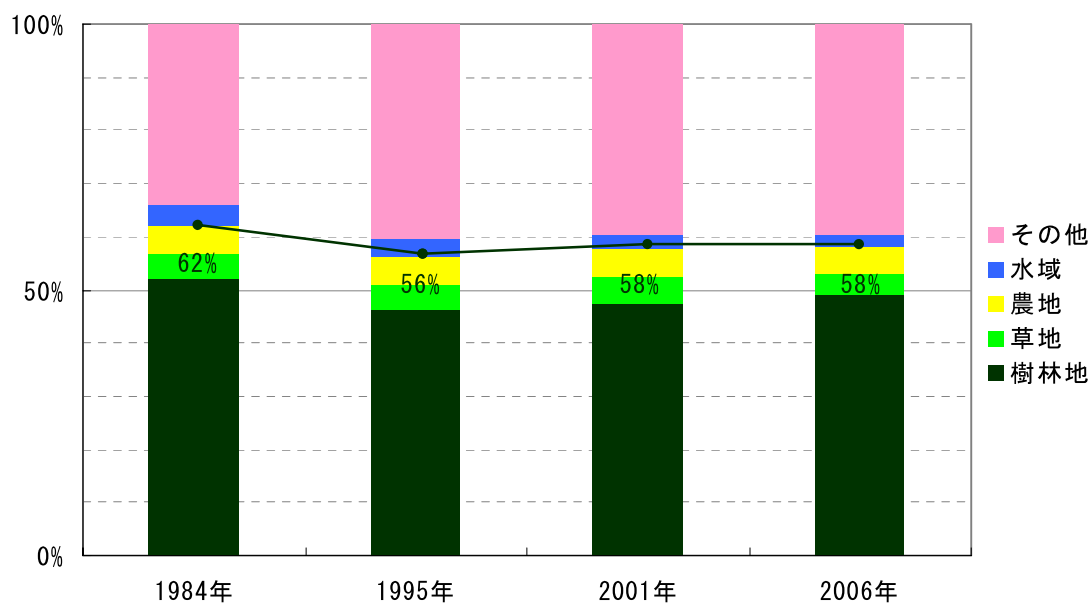


図 3.25 緑被地別の変遷(市全域)

○行政区別の傾向

- ・全ての行政区で、1987年～1995年にかけて緑被率が減少している。
- ・1995年～2006年の緑被率の増減をみると、その他の割合が60%以上を占める小倉北区と戸畑区では減少傾向にあり、市街化の進んでいる地区で緑被地が減少していることがうかがえる。門司区と若松区、八幡東区では増加傾向、他の地区ではほぼ同水準で推移している。

表 3.11 緑被地別の変遷(門司区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地(ha)	4,475	3,985	4,226	4,625	150
草地(ha)	228	191	295	93	▲ 135
農地(ha)	274	271	216	190	▲ 84
水域(ha)	264	118	94	93	▲ 170
その他(ha)	2,095	2,771	2,505	2,334	239
合計(ha)	7,335	7,335	7,335	7,335	
緑被面積(ha)	4,977	4,447	4,736	4,908	
	(5241)	(4565)	(4830)	(5001)	
緑被率(%)	68%	61%	65%	67%	
	(71%)	(62%)	(66%)	(68%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

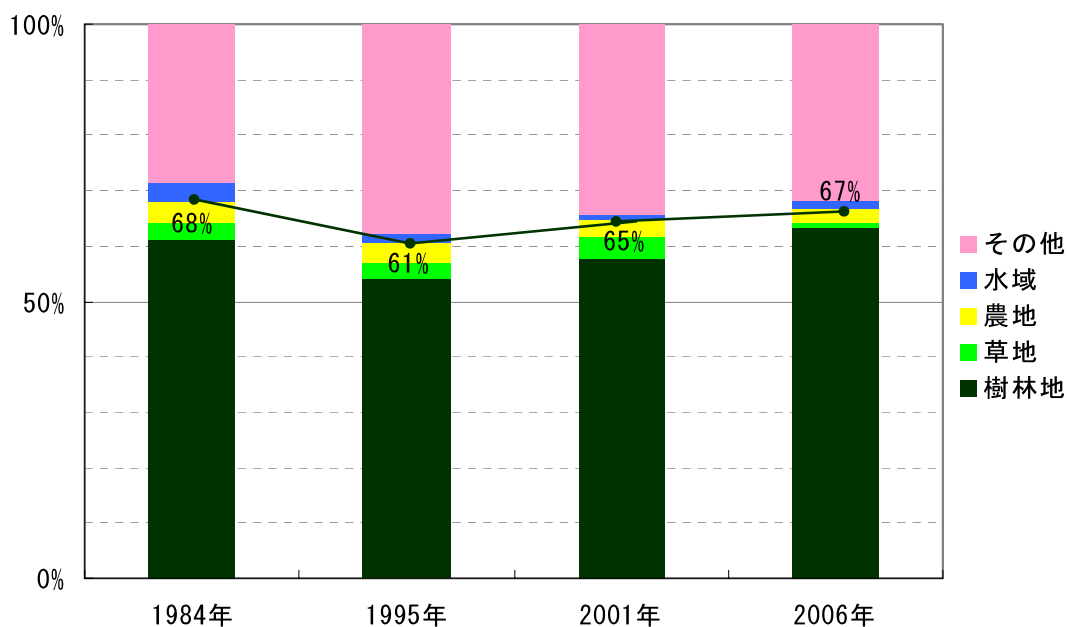


図 3.26 緑被地別の変遷(門司区)

表 3.12 緑被地別の変遷(小倉北区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地(ha)	1,294	1,082	1,099	1,114	▲ 180
草地(ha)	63	67	87	20	▲ 44
農地(ha)	0	0	0	4	4
水域(ha)	65	66	65	64	▲ 1
その他(ha)	2,469	2,677	2,641	2,690	221
合計(ha)	3,892	3,892	3,892	3,892	
緑被面積(ha)	1,357	1,149	1,186	1,137	
	(1422)	(1214)	(1250)	(1201)	
緑被率(%)	35%	30%	30%	29%	
	(37%)	(31%)	(32%)	(31%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

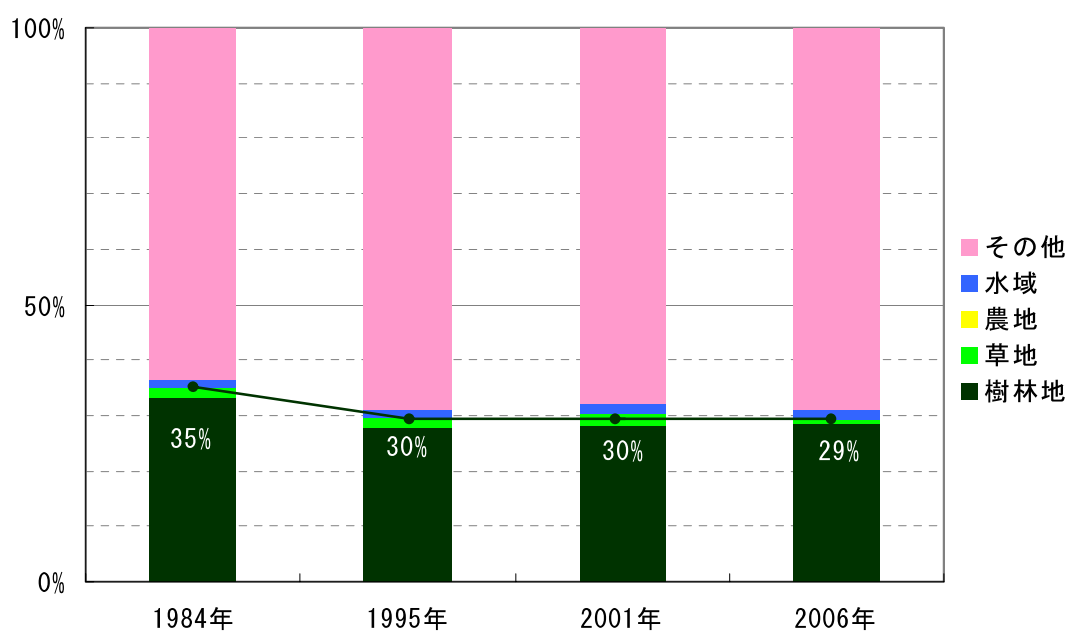


図 3.27 緑被地別の変遷(小倉北区)

表 3.13 緑被地別の変遷(小倉南区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地(ha)	10,951	9,983	10,228	10,636	▲ 315
草地(ha)	1,638	1,467	1,406	1,018	▲ 619
農地(ha)	1,299	1,388	1,223	1,157	▲ 142
水域(ha)	353	410	348	254	▲ 99
その他(ha)	3,055	4,047	4,090	4,231	1,176
合計(ha)	17,296	17,296	17,296	17,296	
緑被面積(ha)	13,888	12,838	12,857	12,811	
	(14241)	(13248)	(13205)	(13065)	
緑被率(%)	80%	74%	74%	74%	
	(82%)	(77%)	(76%)	(76%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

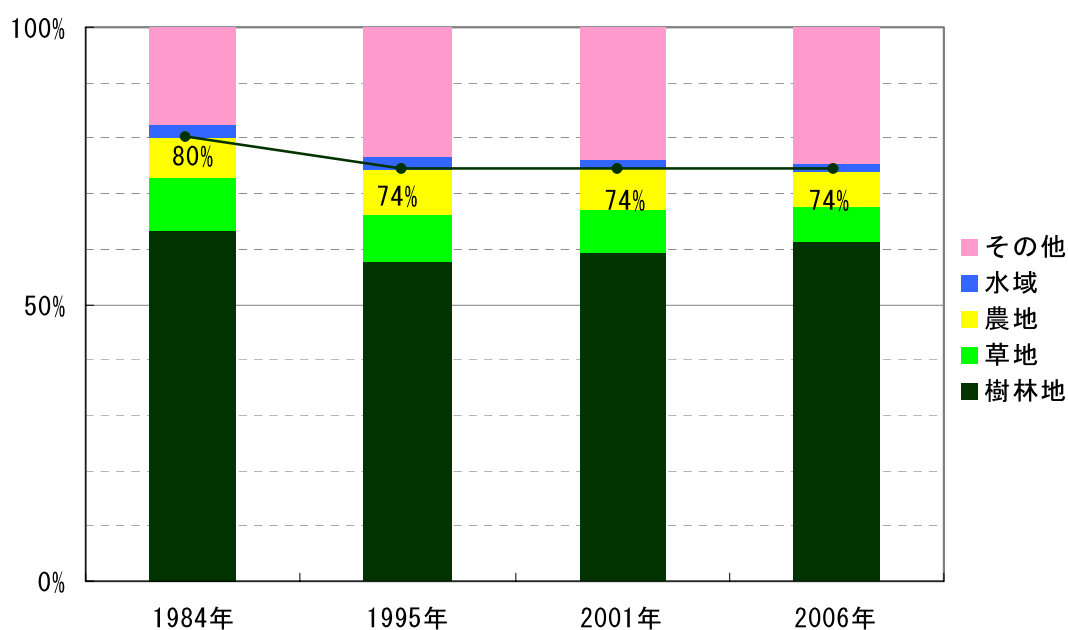


図 3.28 緑被地別の変遷(小倉南区)

表 3.14 緑被地別の変遷(若松区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地 (ha)	2,782	2,458	2,467	2,159	▲ 623
草地 (ha)	180	181	204	649	469
農地 (ha)	883	808	885	839	▲ 44
水域 (ha)	908	629	430	360	▲ 548
その他 (ha)	2,271	2,950	3,039	3,017	747
合計 (ha)	7,025	7,025	7,025	7,025	
緑被面積 (ha)	3,846	3,446	3,556	3,647	
	(4754)	(4075)	(3986)	(4007)	
緑被率 (%)	55%	49%	51%	52%	
	(68%)	(58%)	(57%)	(57%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

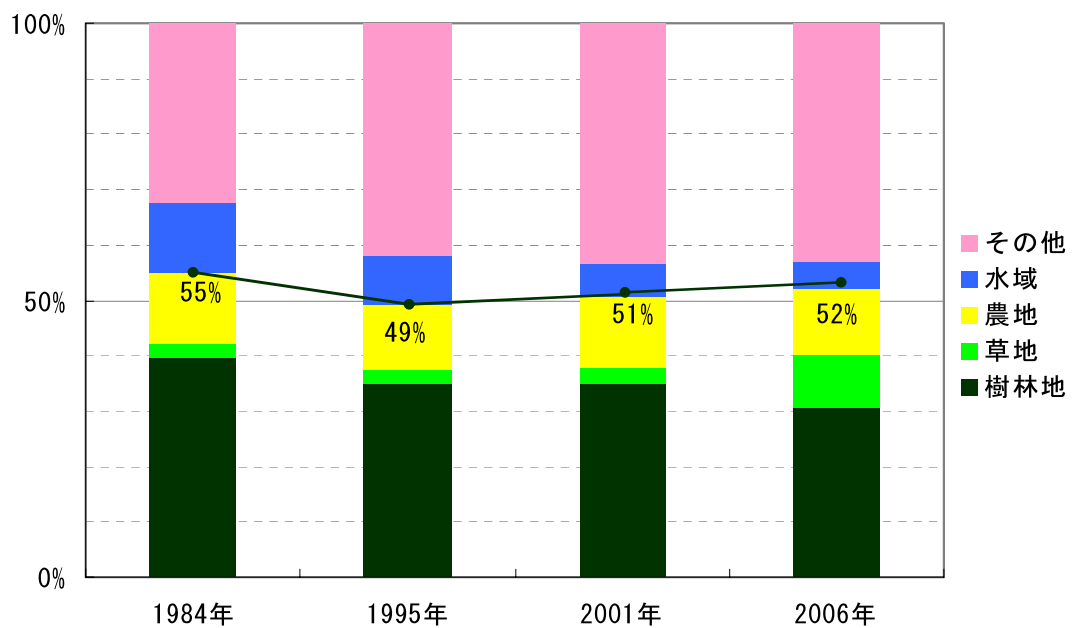


図 3.29 緑被地別の変遷(若松区)

表 3.15 緑被地別の変遷(八幡東区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地 (ha)	2,303	2,031	2,071	2,270	▲ 33
草地 (ha)	75	109	144	31	▲ 44
農地 (ha)	20	25	26	21	1
水域 (ha)	59	60	60	60	1
その他 (ha)	1,183	1,413	1,337	1,257	75
合計 (ha)	3,639	3,639	3,639	3,639	
緑被面積 (ha)	2,398	2,166	2,242	2,322	
	(2457)	(2226)	(2302)	(2382)	
緑被率 (%)	66%	60%	62%	64%	
	(68%)	(61%)	(63%)	(65%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

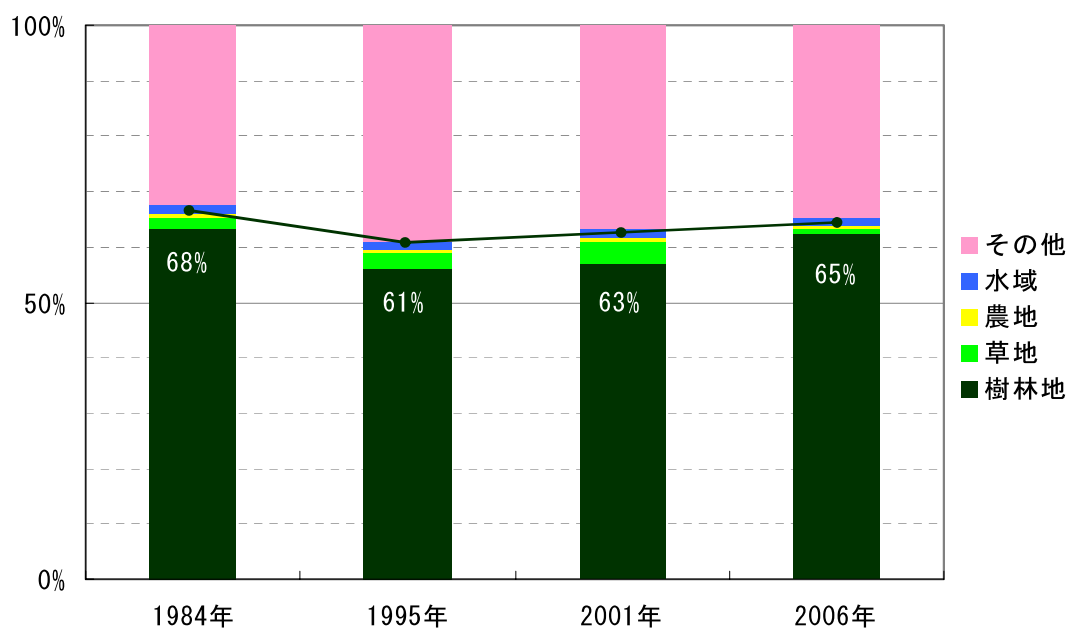


図 3.30 緑被地別の変遷(八幡東区)

表 3.16 緑被地別の変遷(八幡西区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地(ha)	3,488	3,108	3,042	3,196	▲ 292
草地(ha)	128	153	289	143	15
農地(ha)	265	283	274	298	33
水域(ha)	256	255	252	252	▲ 4
その他(ha)	4,147	4,486	4,428	4,394	247
合計(ha)	8,284	8,284	8,284	8,284	
緑被面積(ha)	3,881	3,544	3,605	3,638	
	(4138)	(3799)	(3857)	(3890)	
緑被率(%)	47%	43%	44%	44%	
	(50%)	(46%)	(47%)	(47%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

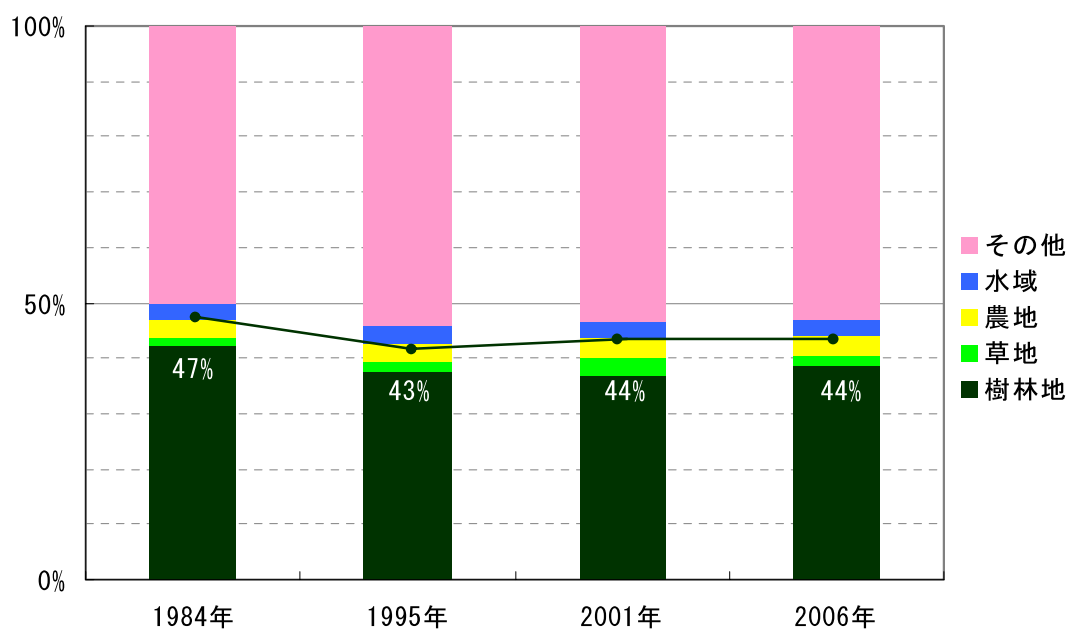


図 3.31 緑被地別の変遷(八幡西区)

表 3.17 緑被地別の変遷(戸畑区)

区分	1984 年	1995 年	2001 年	2006 年	増減 2006 年-1984 年
樹林地(ha)	204	139	149	120	▲ 84
草地(ha)	12	15	27	9	▲ 4
農地(ha)	0	0	0	0	0
水域(ha)	14	15	13	14	1
その他	1,422	1,483	1,462	1,509	87
合計(ha)	1,652	1,652	1,652	1,652	
緑被面積(ha)	217	154	177	129	
	(230)	(169)	(189)	(143)	
緑被率(%)	13%	9%	11%	8%	
	(14%)	(10%)	(11%)	(9%)	

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

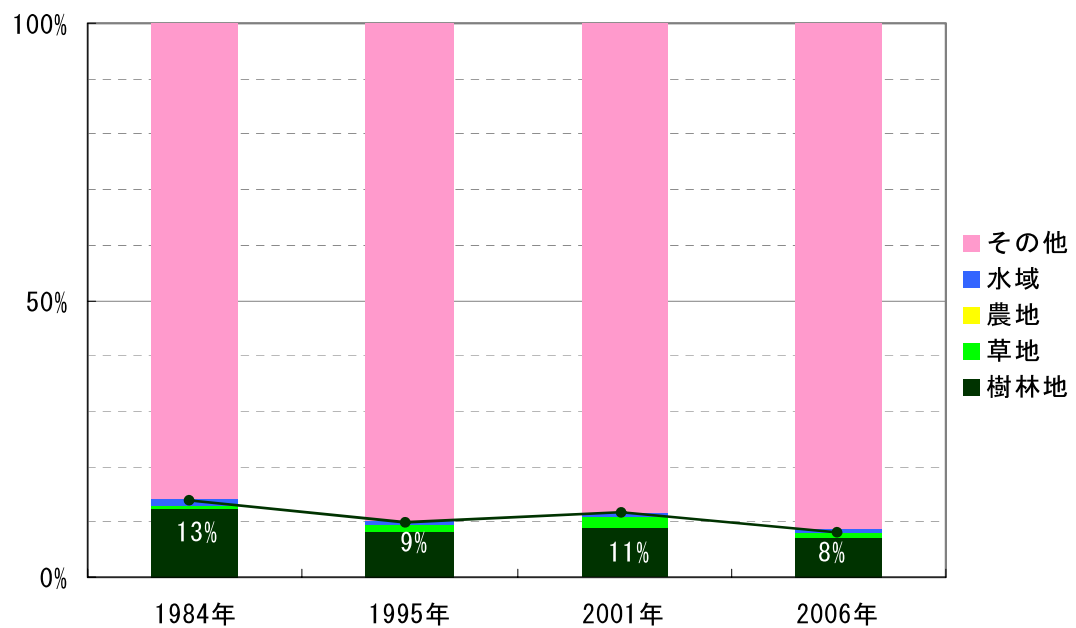


図 3.32 緑被地別の変遷(戸畑区)

3.3 行政区別の分類

- ・全ての行政区において、1984年～1995年にかけて緑被率が減少している。
- ・1995年～2006年の緑被率の増減をみると、小倉北区と戸畑区では減少傾向にあり、門司区と若松区、八幡東区では増加傾向、他の地区ではほぼ同水準で推移している。
- ・2006年の緑被率は戸畑区8%と最も低く、八幡南区が74%と最も多い。

表 3.18 緑被率の変遷(区別)

	1984 年		1995 年		2001 年		2006 年	
	緑被面積 (ha)	緑被率(%)	緑被面積 (ha)	緑被率(%)	緑被面積 (ha)	緑被率(%)	緑被面積 (ha)	緑被率(%)
門司区	4,977	68%	4,447	61%	4,736	65%	4,908	67%
	(5241)	(71%)	(4565)	(62%)	(4830)	(66%)	(5001)	(68%)
小倉北区	1,357	35%	1,149	30%	1,186	30%	1,137	29%
	(1422)	(37%)	(1214)	(31%)	(1250)	(32%)	(1201)	(31%)
小倉南区	13,888	80%	12,838	74%	12,857	74%	12,811	74%
	(14241)	(82%)	(13248)	(77%)	(13205)	(76%)	(13065)	(76%)
若松区	3,846	55%	3,446	49%	3,556	51%	3,647	52%
	(4754)	(68%)	(4075)	(58%)	(3986)	(57%)	(4007)	(57%)
八幡東区	2,398	66%	2,166	60%	2,242	62%	2,322	64%
	(2457)	(68%)	(2226)	(61%)	(2302)	(63%)	(2382)	(65%)
八幡西区	3,881	47%	3,544	43%	3,605	44%	3,638	44%
	(4138)	(50%)	(3799)	(46%)	(3857)	(47%)	(3890)	(47%)
戸畑区	217	13%	154	9%	177	11%	129	8%
	(230)	(14%)	(169)	(10%)	(189)	(11%)	(143)	(9%)
市全域	30,564	62%	27,744	56%	28,358	58%	28,593	58%
	(32483)	(66%)	(29296)	(60%)	(29620)	(60%)	(29690)	(60%)

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

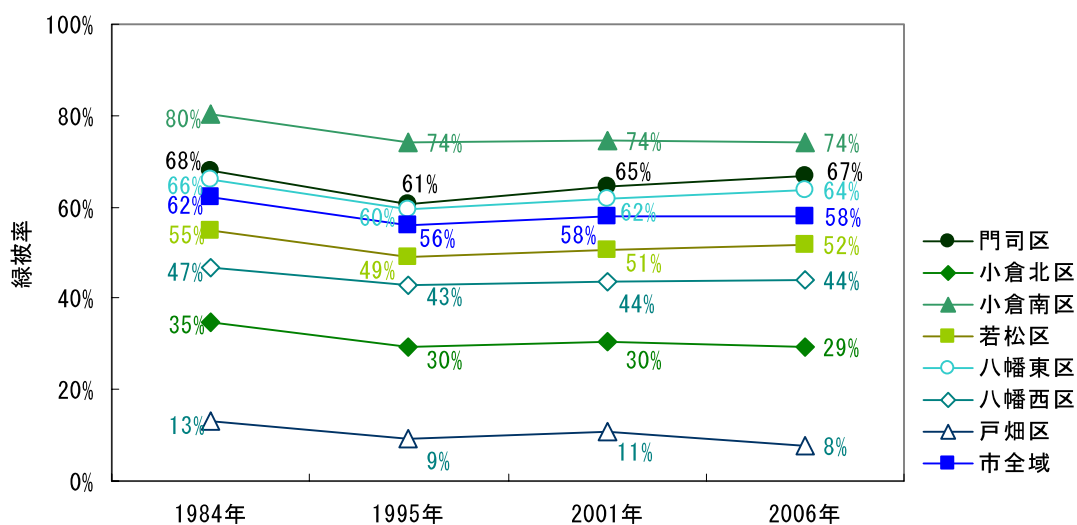


図 3.33 緑被率の変遷(区別)

3.4 用途地域区分における緑被率と内訳

- ・用途地域区分の緑被率は住居系用途が最も高く、住居系用途の面積に対し緑被地が 22%を占めている。次いで工業系用途が、工業系用途の面積に対し緑被地が 13%となっている。商業系用途については、商業系の面積に対し緑被地が 1 %程度である。
- ・住居系用途内には、都市公園や公共公益施設が多く含まれていることから、比較的高い緑被率となっている。工業系用途内では、工場敷地内の緩衝緑被地帯など民間敷地内緑被地が多く確保されていることがうかがえる。
- ・1995 年～2006 年にかけての緑被率は、工業地域で 2 ポイント増加、住居地域で 17 ポイント減少、商業地域で 3 ポイント減少となっている。

表 3.19 用途地域別緑被の変遷

	1984 年		1995 年		2001 年		2006 年	
	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)
住居	3,921	33%	2,257	19%	2,563	22%	2,652	22%
	(4068)	(34%)	(2406)	(20%)	(2692)	(23%)	(2785)	(23%)
工業	541	10%	369	7%	487	9%	857	13%
	(737)	(14%)	(503)	(9%)	(631)	(12%)	(1071)	(17%)
商業	72	4%	34	2%	33	2%	18	1%
	(90)	(5%)	(53)	(3%)	(51)	(3%)	(37)	(2%)

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

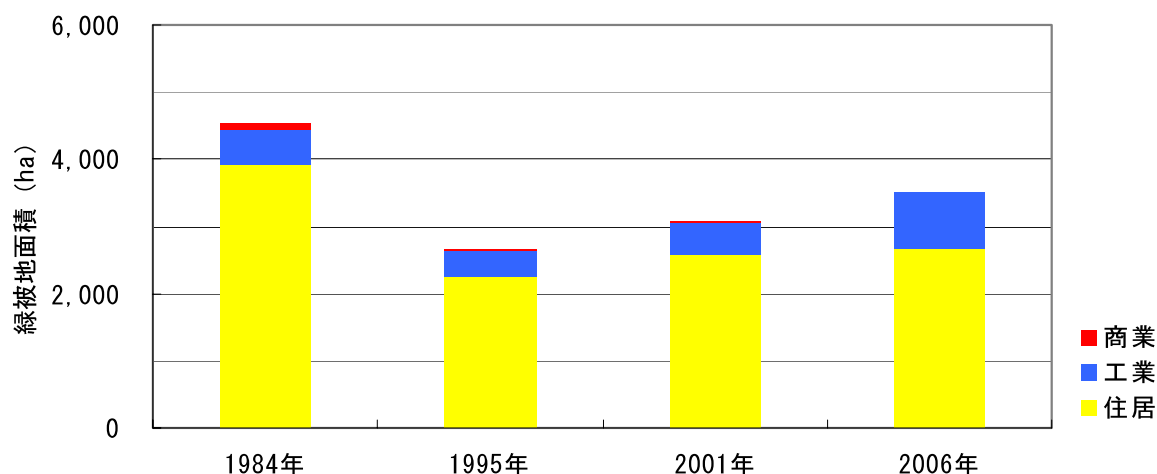


図 3.34 用途地域別緑被面積の変遷

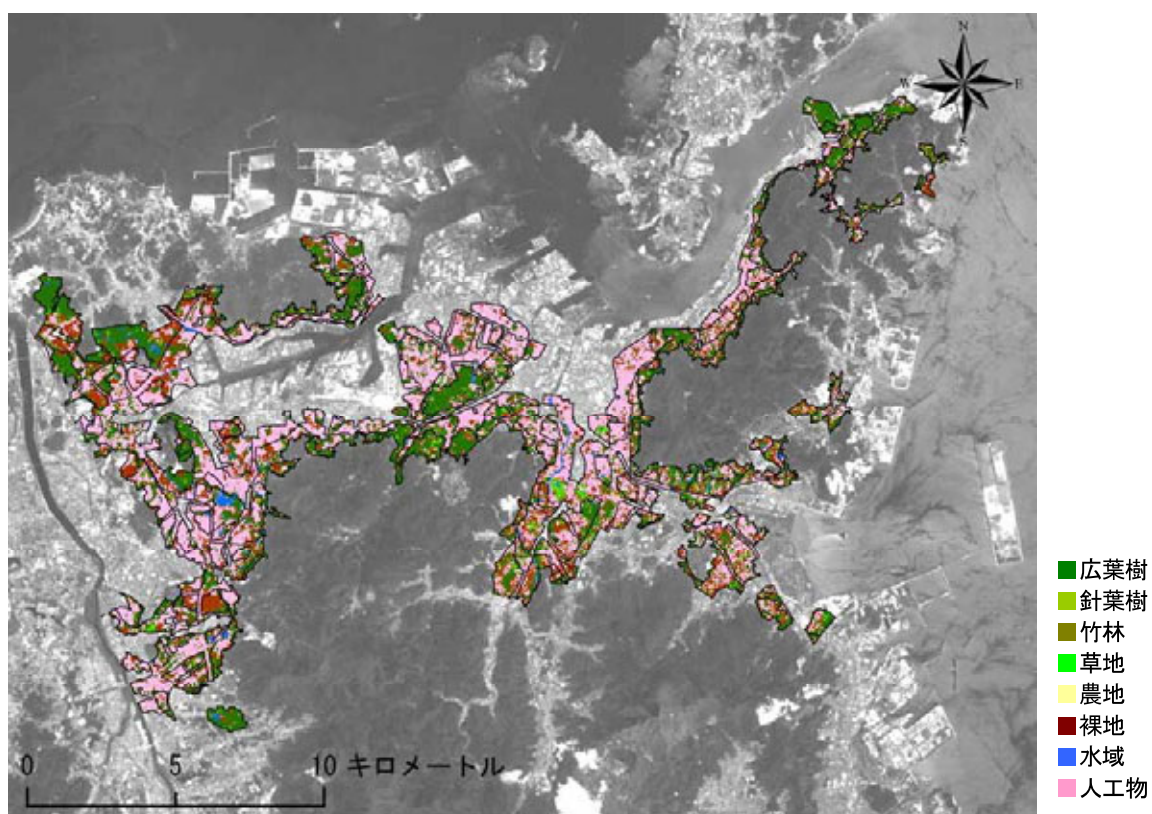


図 3.35 用途地区(住居)緑被分布(1984 年)

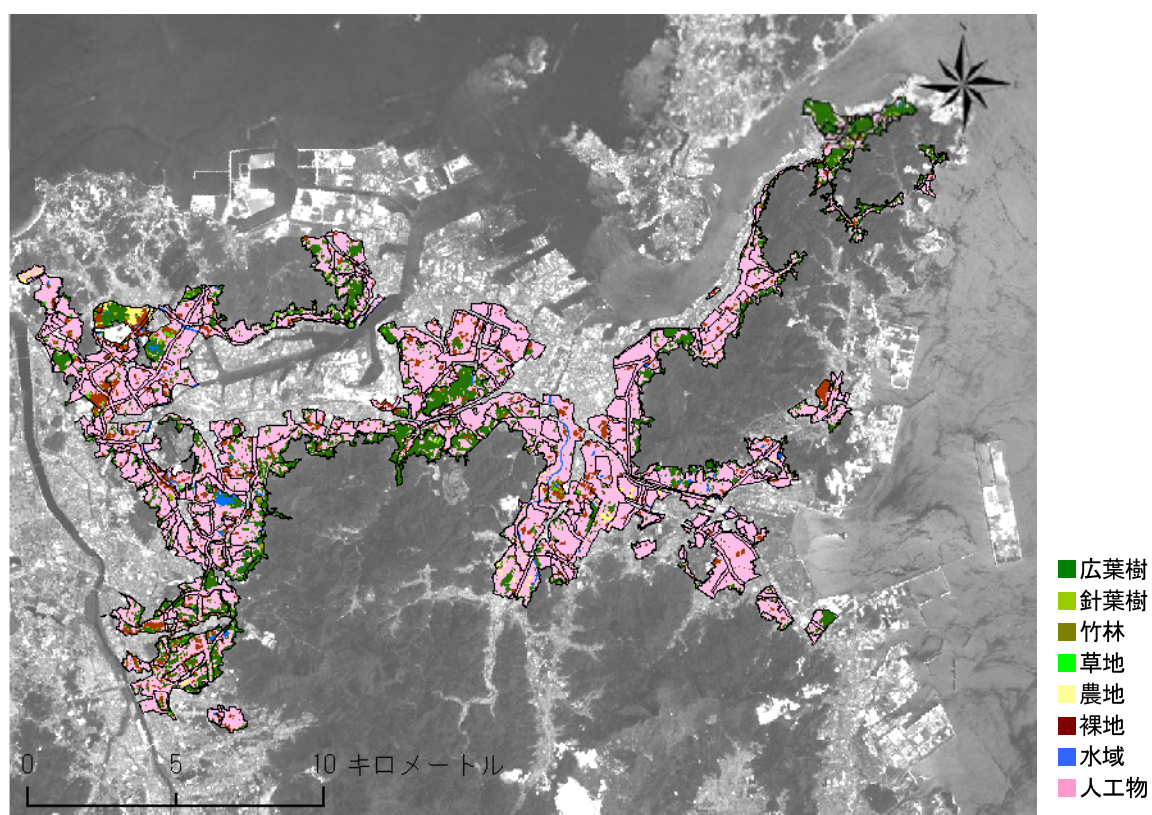


図 3.36 用途地区(住居)緑被分布(2006 年)

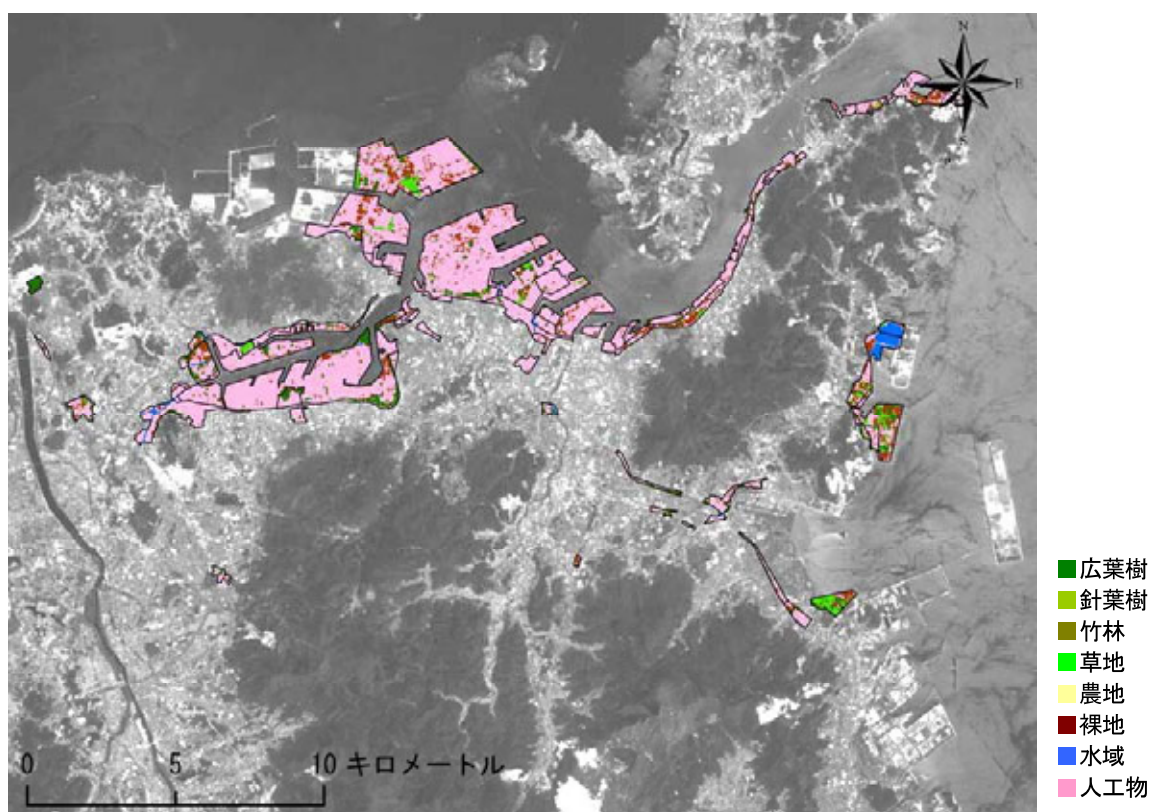


図 3.37 用途地区(工業)緑被分布(1984 年)

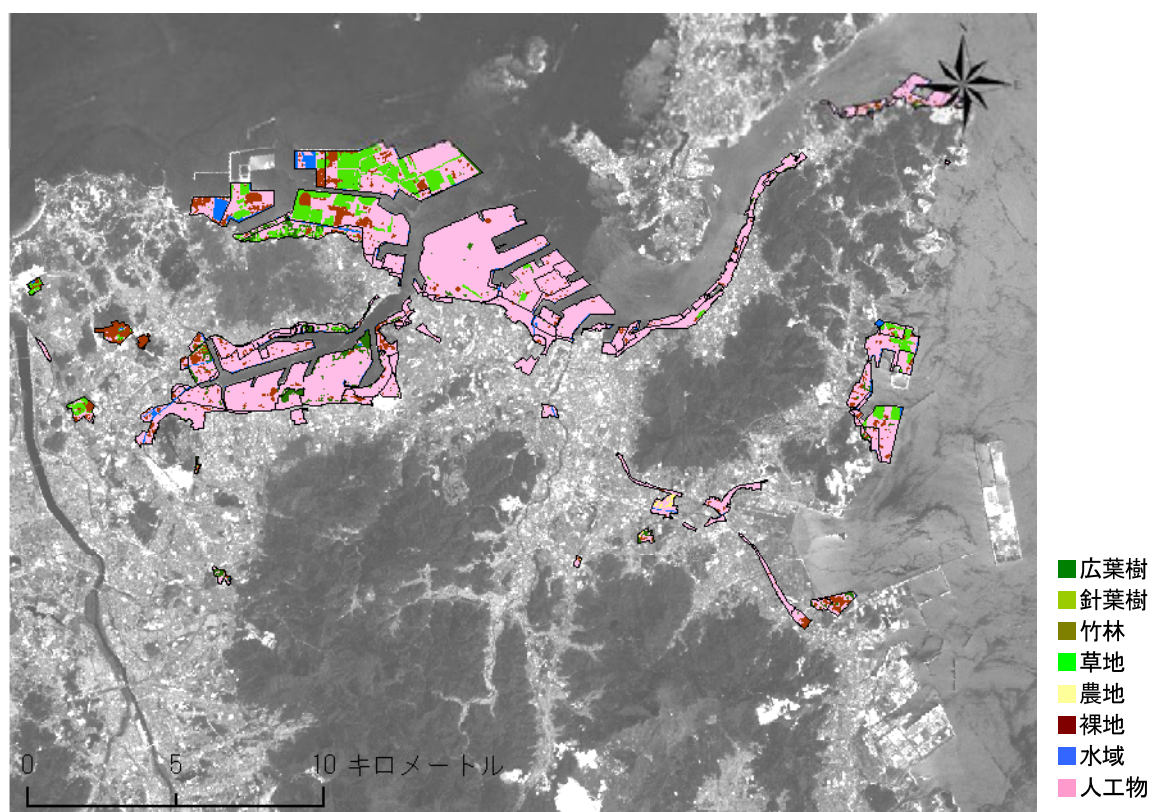


図 3.38 用途地区(工業)緑被分布(2006 年)

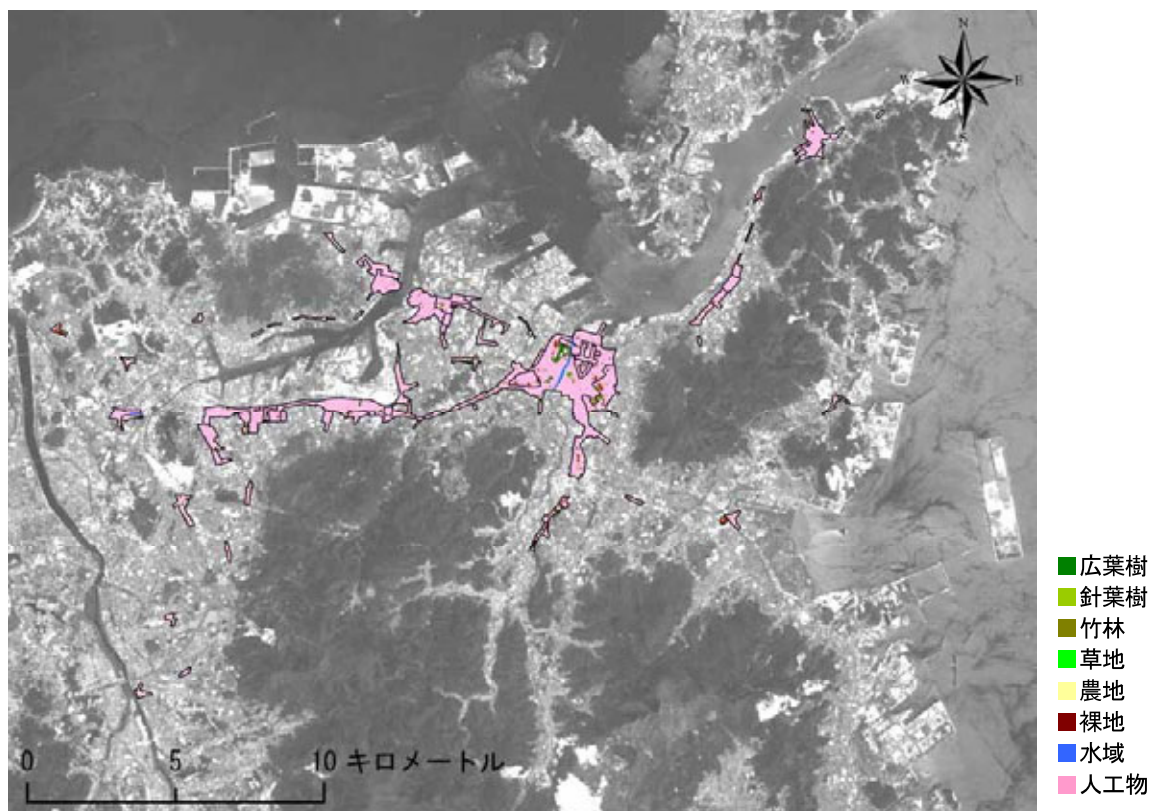


図 3.39 用途地区(商業)緑被分布(1984 年)

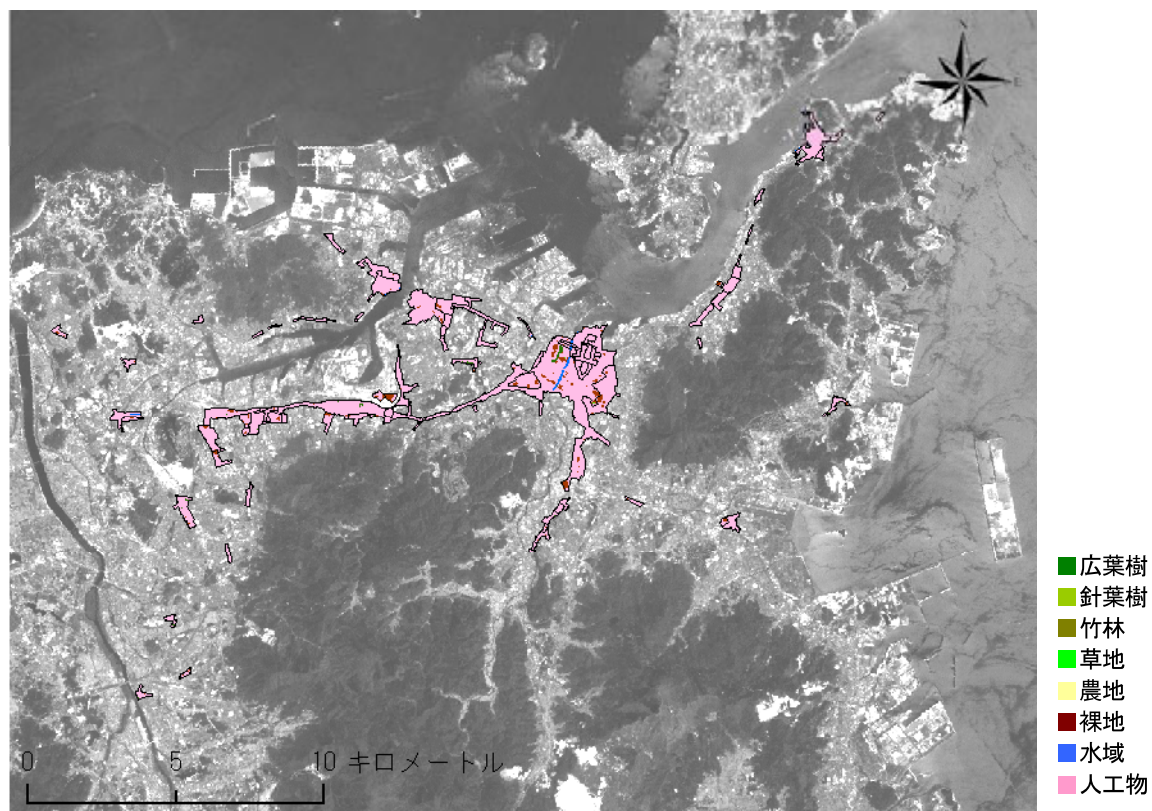


図 3.40 用途地区(商業)緑被分布(2006 年)

3.5 防火・準防火地域における緑被率と内訳

- ・防火・準防火地域における緑被率は2%と少ない。
- ・1984年～2006年の22年間で緑被率は3%減少している。
- ・防火・準防火地域は、用途地域の商業地域と重複するエリアが含まれ、商業地域同様に緑被率が低い。

表 3.20 防火・準防火地域における緑被率の変遷

	1984 年	1994 年	2001 年	2006 年
樹林地	132	54	50	47
農地	0	0	0	0
草地	13	11	13	4
水域	28	28	28	28
その他	2,504	2,583	2,585	2,598
緑被面積 (ha)	144	65	64	51
	172	93	91	78
緑被率 (%)	5%	2%	2%	2%
	6%	3%	3%	3%

※「樹林地」は、広葉樹、針葉樹、竹林をあわせた数字とする。

※「農地」は、農振農用区域のうち、水田、または草地、土壌が確認されたエリアとする。

※「その他」は、裸地、並びに市街地と住宅地をあわせた数字とする。

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

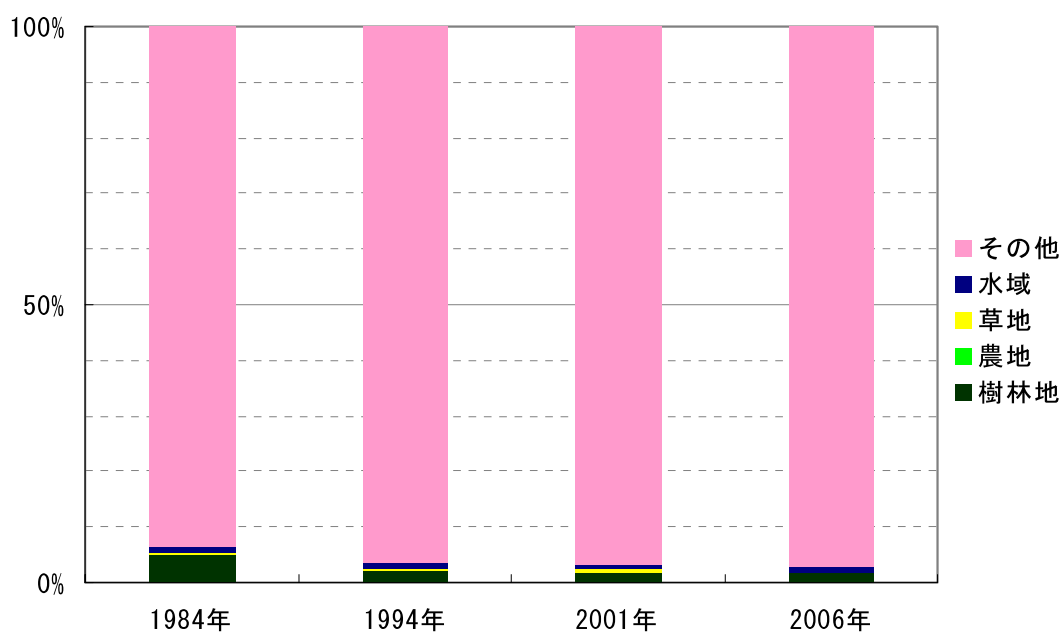


図 3.41 防火・準防火地域における緑被構成の変遷

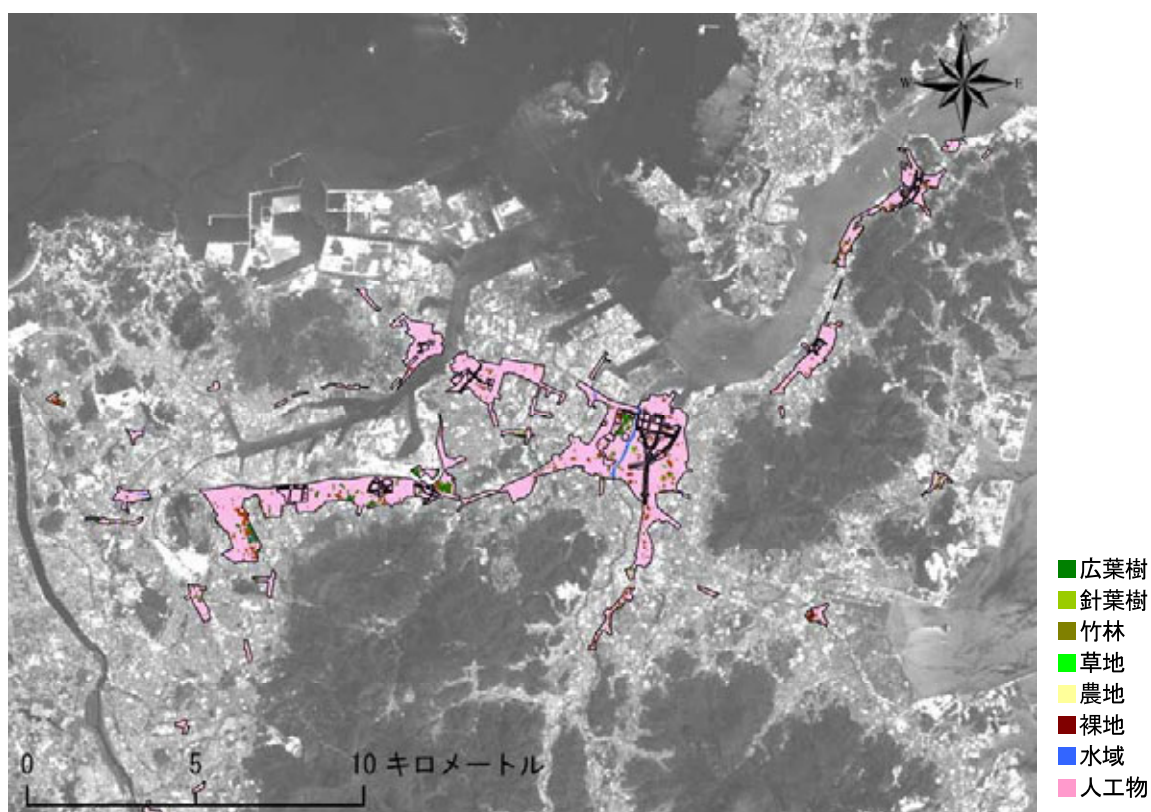


図 3.42 防火・準防火地域における緑被分布(1984 年)

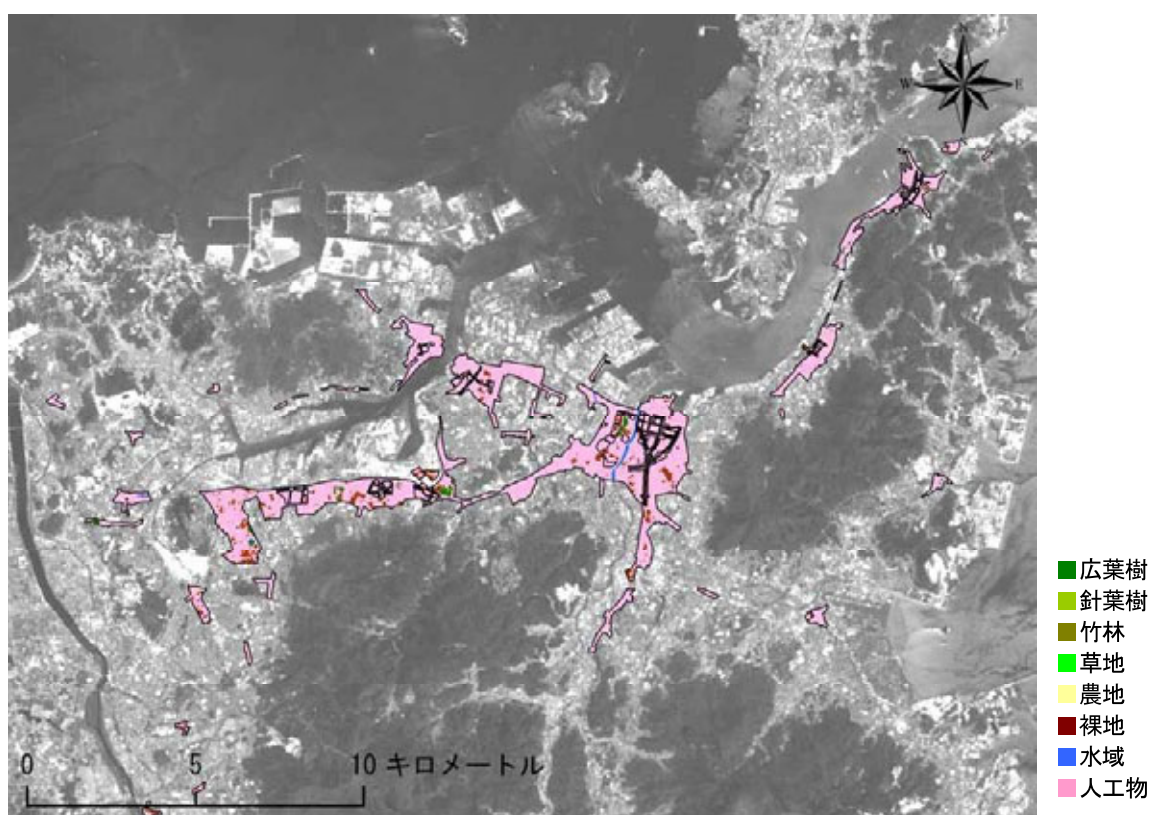


図 3.43 防火・準防火地域における緑被分布(2006 年)

3.6 標高別分類

- ・標高 101m 以上の土地の緑被率は 90%以上であり、市街化の影響が少なく、緑被地が保全されていることがうかがえる。
- ・1984 年～2006 年の 22 年間での緑被面積の増減は、標高 0～100m の土地で最も大きく、1984 年～1995 年にかけて減少し、1995 年から 2006 年にかけて増加傾向となっている。
- ・2006 年における標高 0～100m の緑被地面積は、市全緑被地の 48%を占め、1984 年～2006 年の 22 年間で、173ha 減少し、標高区分における割合も 3%減少する。これは、市全域の減少した緑被面積の 99%を占める。
- ・2006 年における標高 101m以上の緑被地面積は、市全緑被地の 55%を占め、1984 年～2006 年の 22 年間、同水準で推移している。

表 3.21 標高区分による緑被率の変遷

区分	1984 年		1995 年		2001 年		2006 年	
	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)
0-100m	14,687	44%	12,084	36%	12,598	38%	12,715	38%
	17,038	(51%)	14,056	(42%)	14,293	(43%)	14,241	(43%)
101-200m	6,126	95%	5,975	93%	6,041	94%	6,130	95%
	6,237	(97%)	6,089	(95%)	6,156	(96%)	6,249	(97%)
201-300m	4,009	99%	3,976	98%	4,009	99%	4,023	99%
	4,009	(99%)	3,976	(98%)	4,009	(99%)	4,024	(99%)
301-400m	2,915	99%	2,889	98%	2,906	98%	2,915	99%
	2,915	(99%)	2,889	(98%)	2,906	(98%)	2,915	(99%)
401-500m	1,770	91%	1,766	91%	1,750	90%	1,752	90%
	1,770	(91%)	1,766	(91%)	1,750	(90%)	1,752	(90%)
501-600m	845	98%	834	97%	830	97%	830	97%
	845	(98%)	834	(97%)	830	(97%)	830	(97%)
601-700m	265	100%	261	98%	265	100%	265	100%
	265	(100%)	261	(98%)	265	(100%)	265	(100%)
701m-	111	100%	109	98%	111	100%	110	100%
	111	(100%)	109	(98%)	111	(100%)	110	(100%)

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

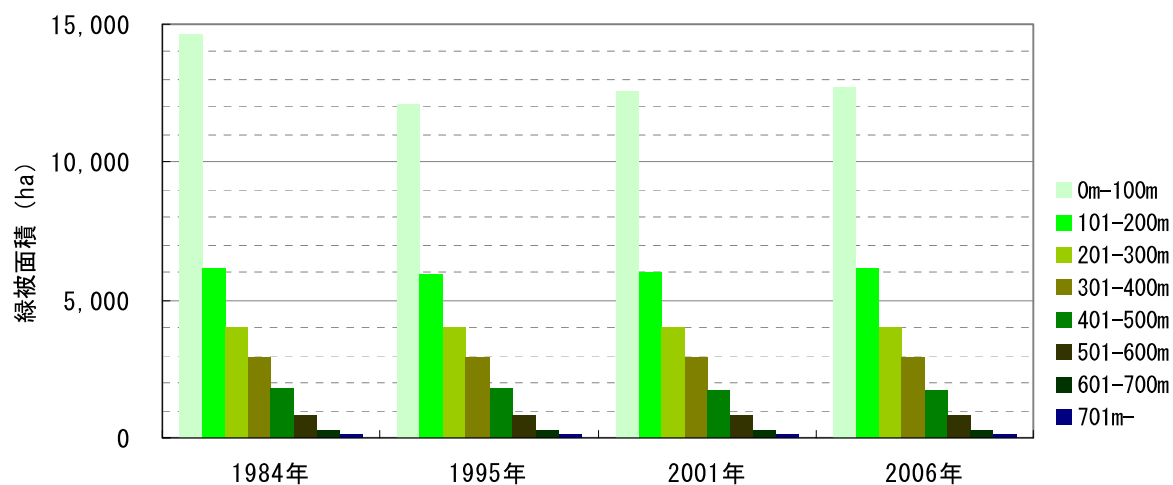


図 3.44 標高区分による緑被面積の変遷

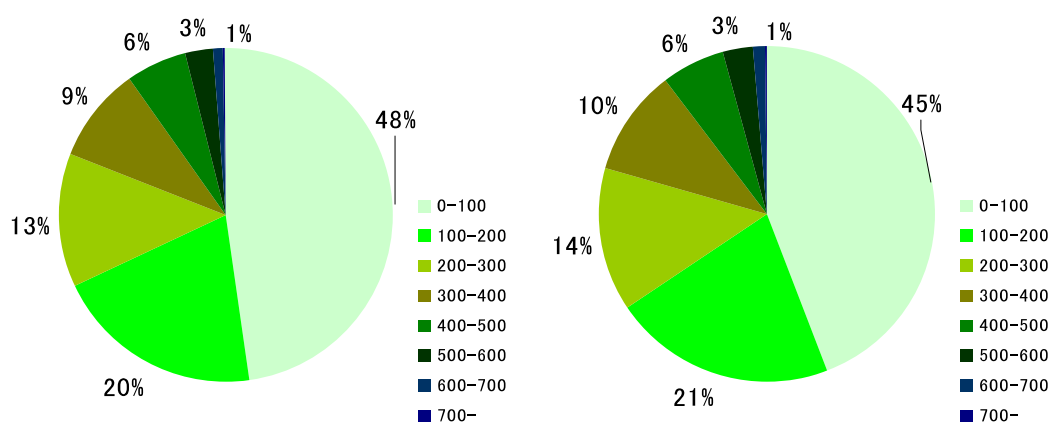


図 3.45 標高区分による緑被面積の構成(左:1984 年、右:2006 年)

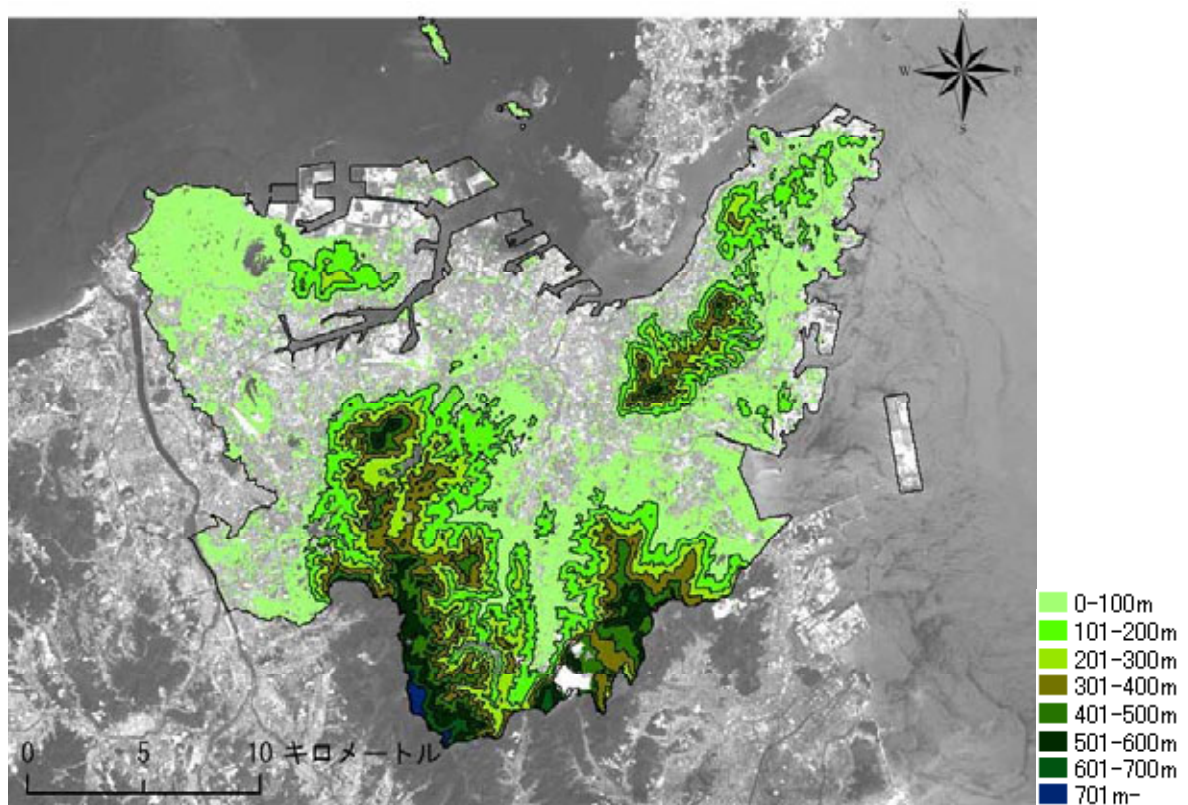


図 3.46 標高別緑被分布図(1984 年)

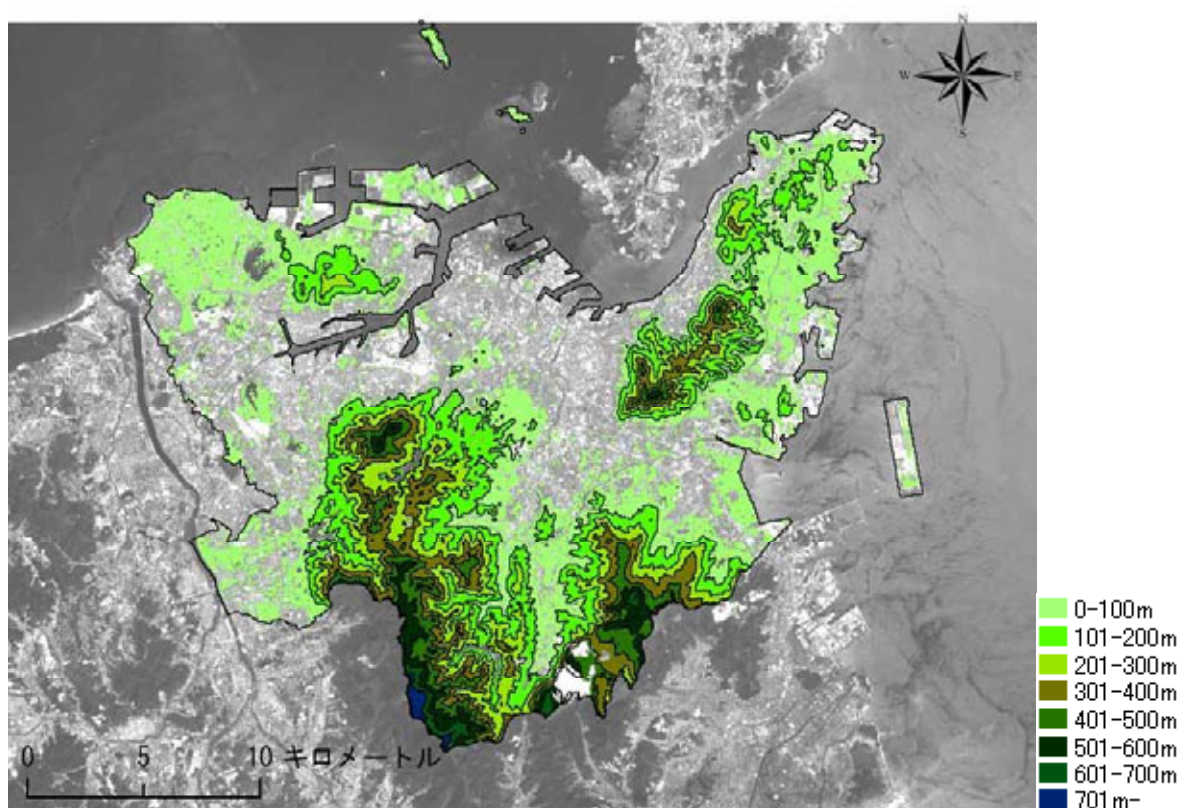


図 3.47 標高別緑被分布図(2006 年)

3.7 傾斜度別分類

- ・傾斜度が11度以上の土地では緑被率が90%以上となっており、市街化に適さない傾斜度であり、市街化の影響が少ないことがうかがえる。
- ・1984年～2006年の22年間の緑被面積の増減は、傾斜度が0-10度の土地で最も大きく、1984年～1995年にかけて減少し、1995年から2006年にかけて増加傾向となっている。
- ・2006年における傾斜角度0-10度の緑被地面積は、市全緑被地の40%を占め、1984年～2006年の22年間で、1863ha減少し、標高区分における割合も3%減少する。これは、市全域の減少した緑被面積の93%を占める。
- ・2006年における傾斜角度11以上の緑被地面積は、市全緑被地の63%を占め、1984年～2006年の22年間で同水準で推移している。

表 3.22 傾斜区分による緑被率の変遷

区分	1984 年		1995 年		2001 年		2006 年	
	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)
0-10 度	12,324	40%	10,081	33%	10,417	34%	10,461	34%
	14,734	(48%)	12,119	(40%)	10,461	(34%)	12,050	(40%)
11-20 度	9,448	92%	8,971	88%	9,158	89%	9,314	91%
	9,493	(93%)	9,013	(88%)	9,314	(91%)	9,358	(91%)
21-30 度	6,846	98%	6,768	97%	6,826	98%	6,848	98%
	6,852	(98%)	6,773	(97%)	6,848	(98%)	6,858	(98%)
31 度-	2,110	98%	2,074	96%	2,108	97%	2,118	98%
	2,111	(98%)	2,075	(96%)	2,118	(98%)	2,120	(98%)

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

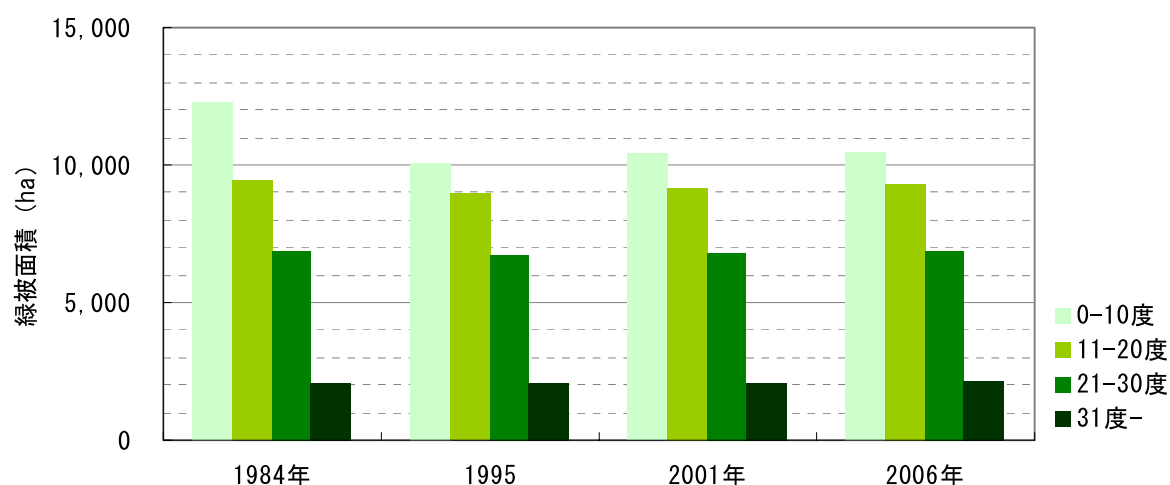


図 3.48 傾斜角度別の緑被面積

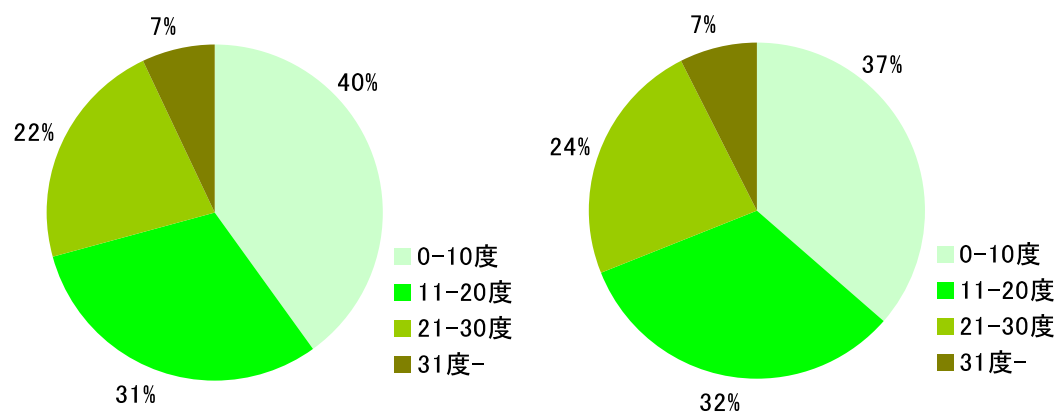


図 3.49 傾斜区分による緑被面積の構成(左:1984 年、右:2006 年)

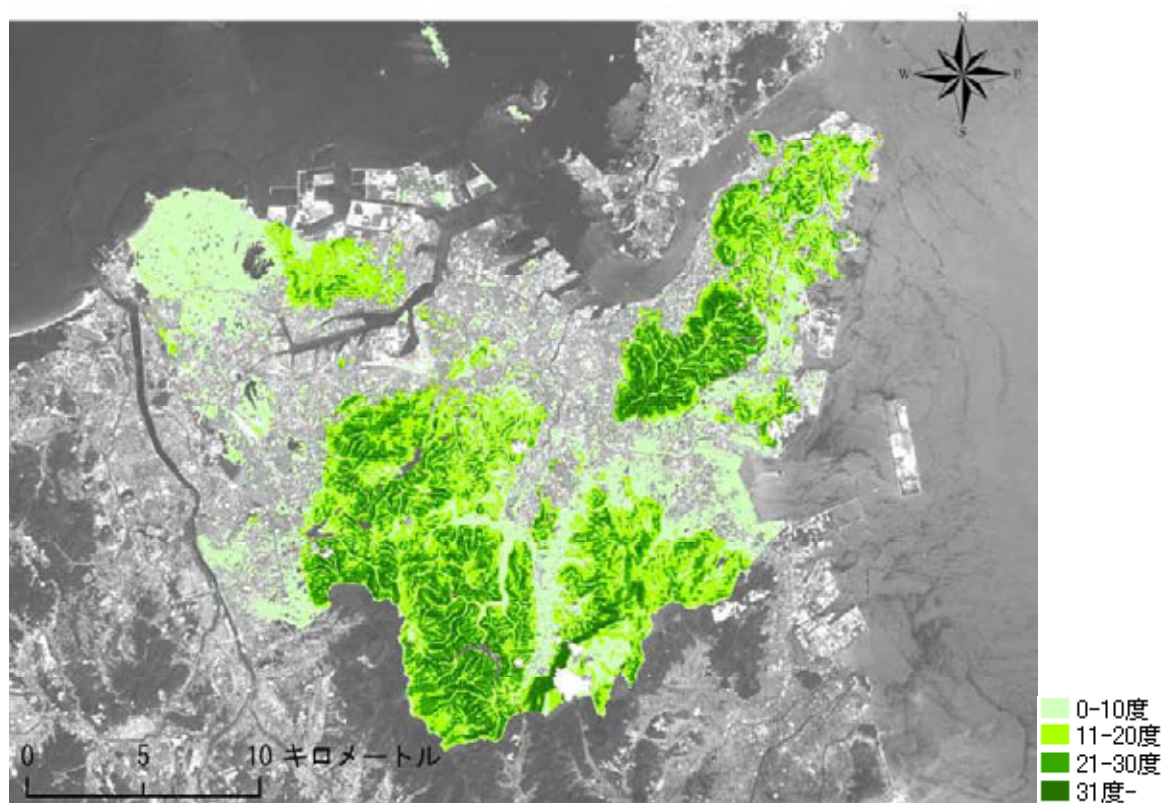


図 3.50 傾斜角度別緑被分布図(1984 年)

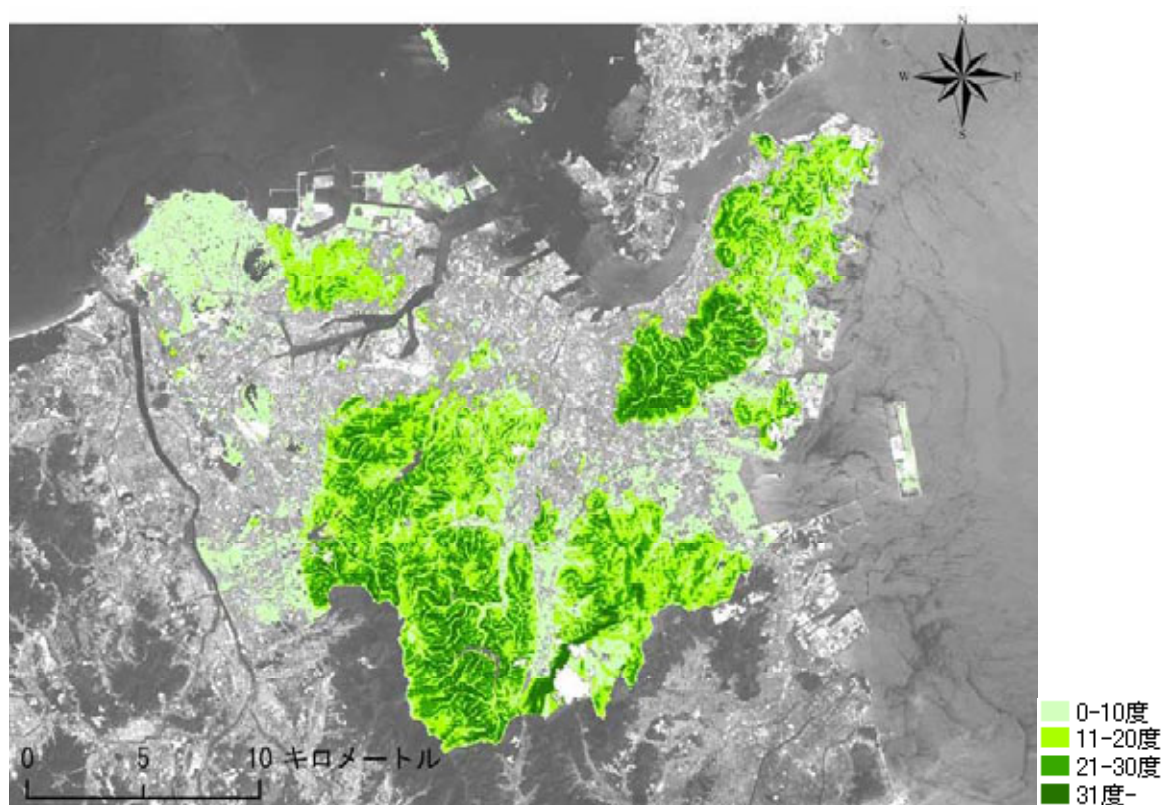


図 3.51 傾斜角度別緑被分布図(2001 年)

3.8 斜面方位別分類

- ・斜面区分別にみると、東斜面の緑被率が最も高い。
- ・全ての傾斜区分で、1987年～1995年にかけて緑被率が減少し、1995年～2006年にかけてはほぼ同水準で推移している。

表 3.23 斜面区分による緑被率の変遷

区分	1984 年		1995 年		2001 年		2006 年	
	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)
北斜面	8,460	64%	7,587	57%	7,574	57%	7,763	59%
	8,740	(66%)	7,819	(59%)	7,778	(59%)	7,968	(60%)
東斜面	8,375	70%	7,693	64%	7,929	66%	7,772	65%
	8,642	(72%)	7,918	(66%)	8,147	(68%)	7,988	(67%)
南斜面	6,622	49%	6,062	45%	6,454	47%	6,505	48%
	8,218	(60%)	7,416	(54%)	7,582	(56%)	7,466	(55%)
西斜面	7,270	66%	6,552	60%	6,551	60%	6,700	61%
	7,589	(69%)	6,827	(62%)	6,811	(62%)	6,963	(63%)

※緑被率は、広葉樹・針葉樹・竹林・草地・農地の全体に占める割合を示す。緑被率、緑被地面積のうち()は、前述の緑被地に水を加えた緑被率、緑被地面積を示す。

※集計にあたって小数点以下は四捨五入している。

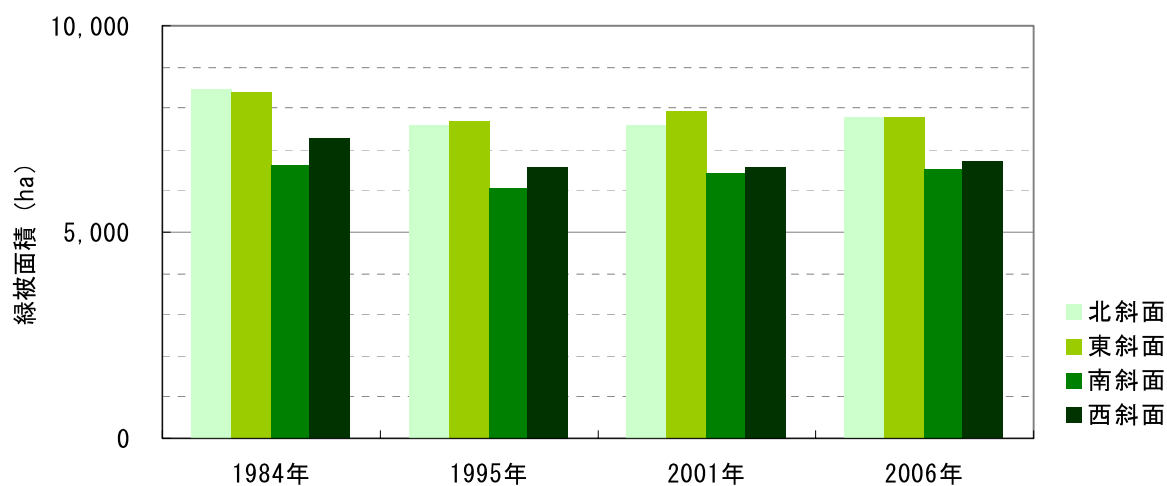


表 3.52 斜面区分によるみどり面積

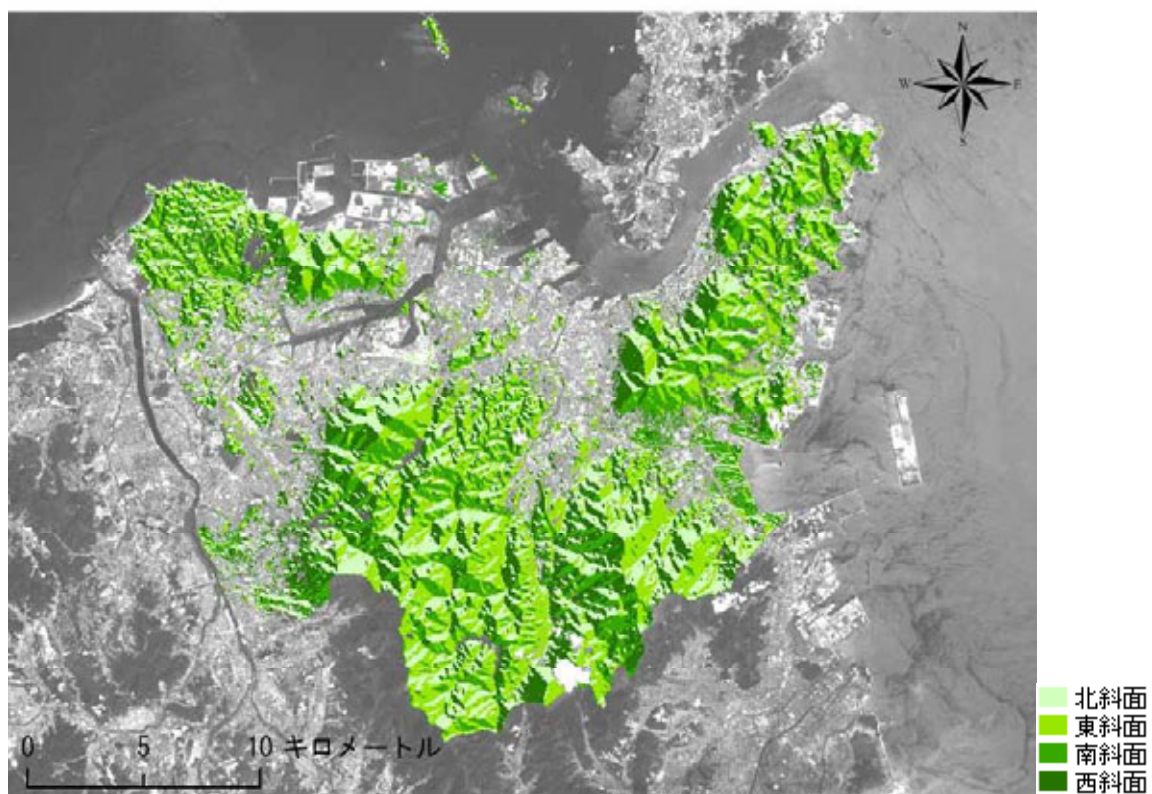


図 3.53 斜面方位別緑被分布図(1984 年)

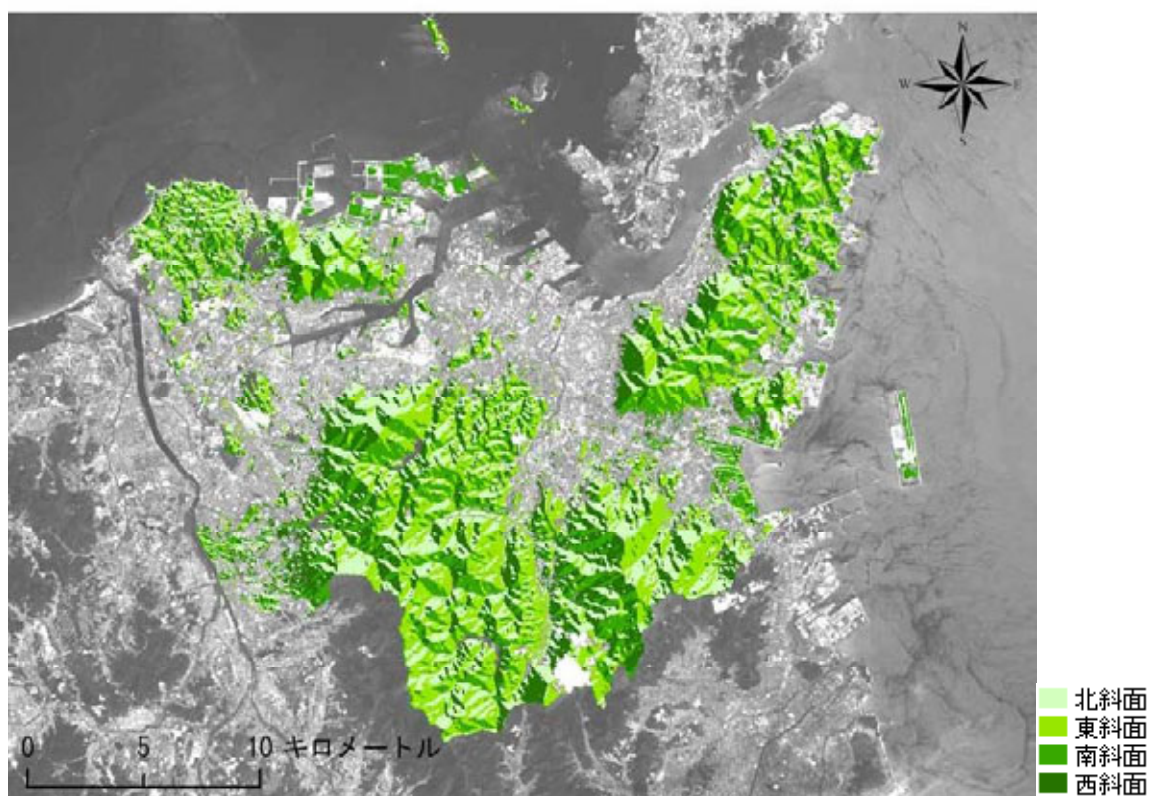


図 3.54 斜面方位別緑被分布図(2006 年)

3.9 地形別分類

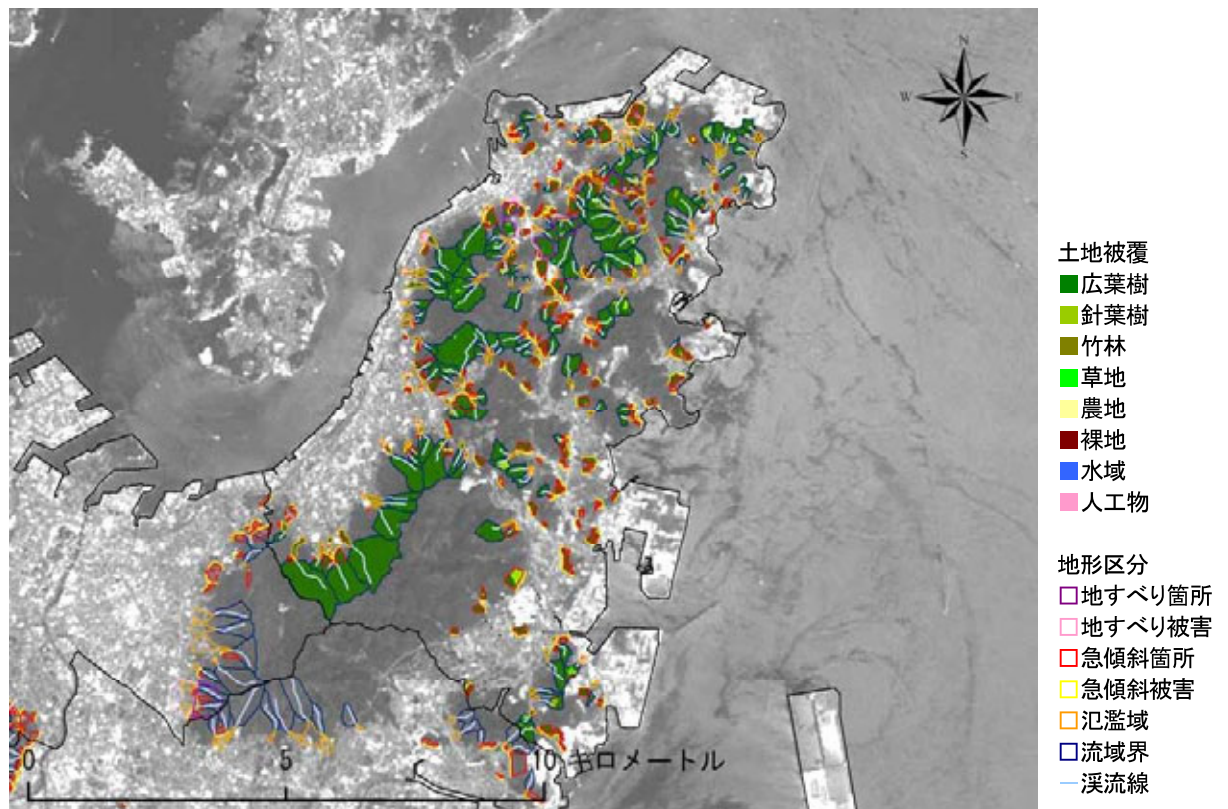


図 3.55 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 門司区）

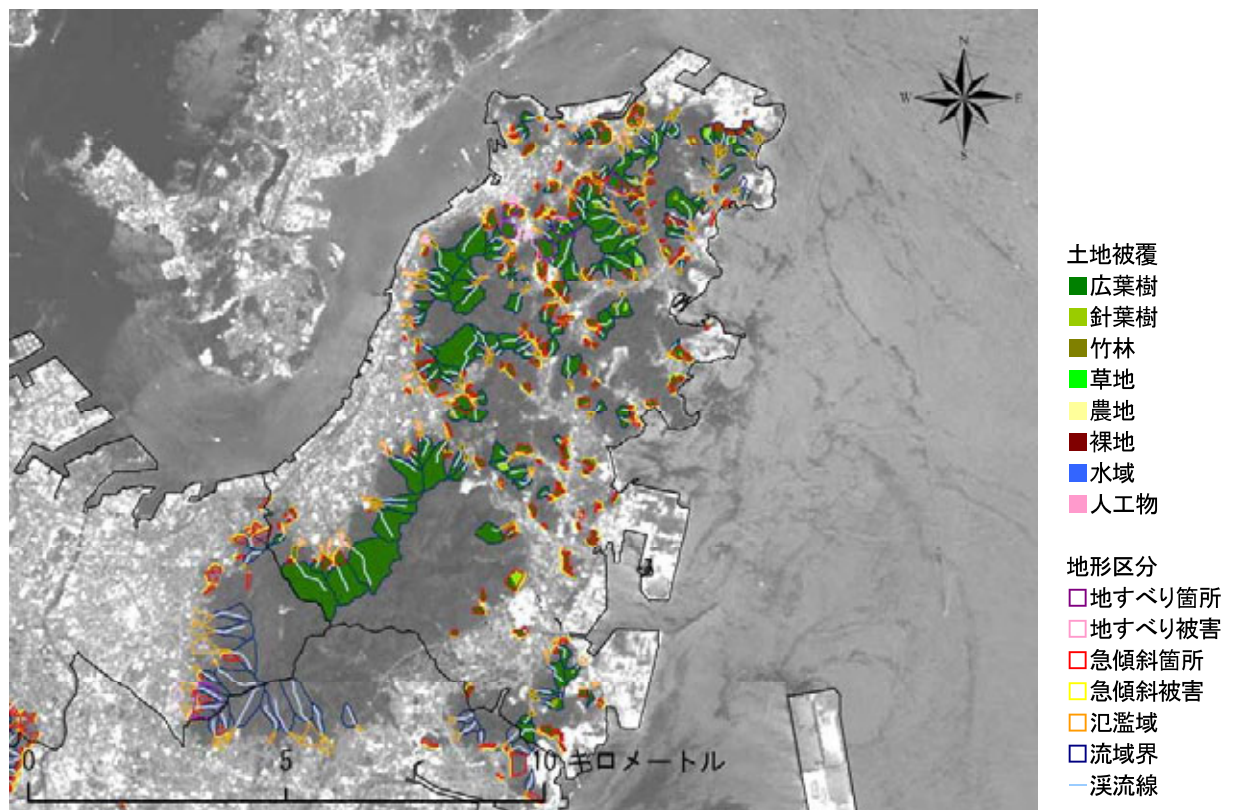


図 3.56 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 門司区）

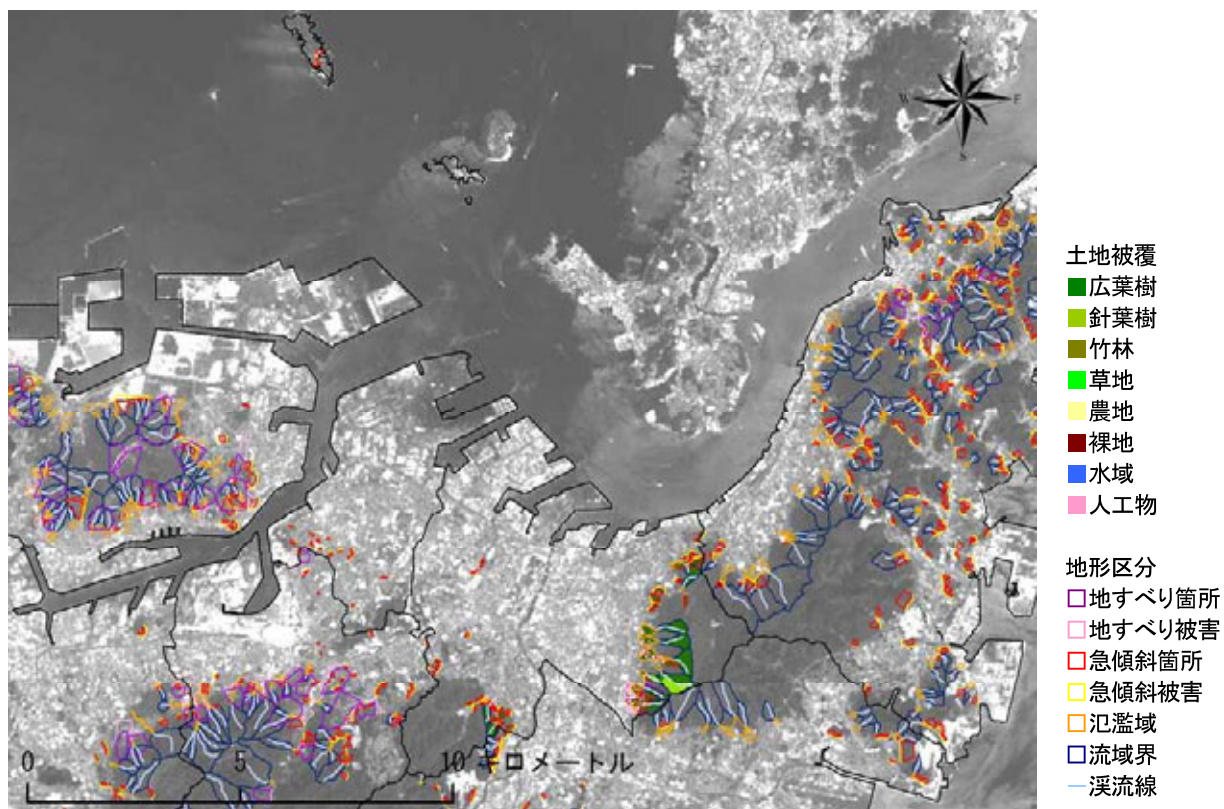


図 3.57 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 小倉北区）

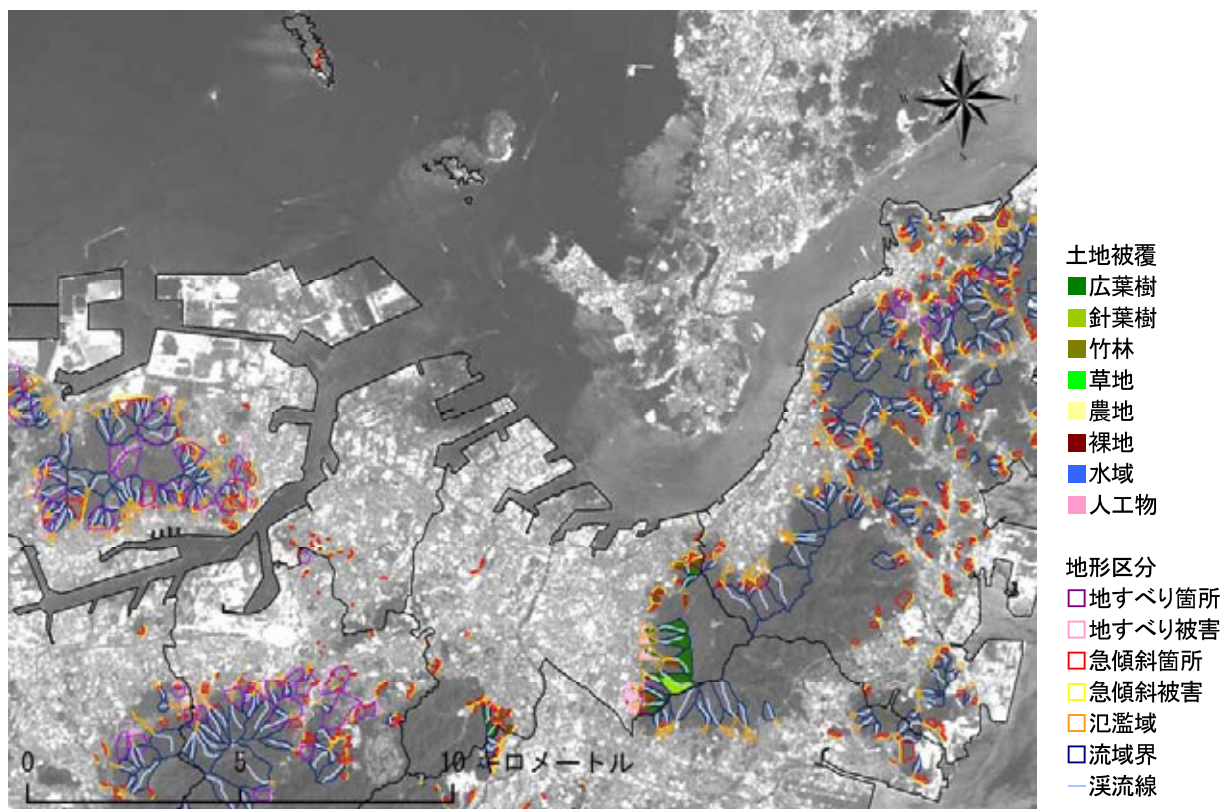


図 3.58 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 小倉北区）

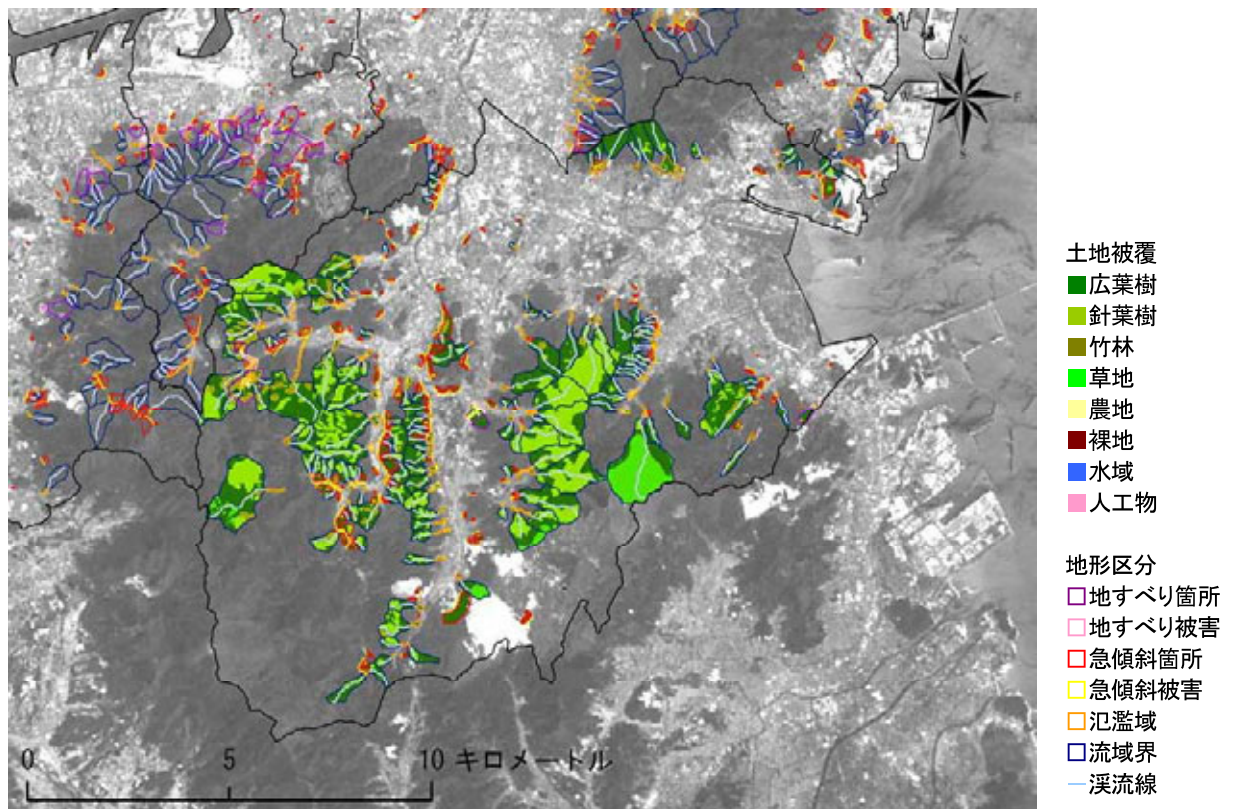


図 3.59 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 小倉南区）

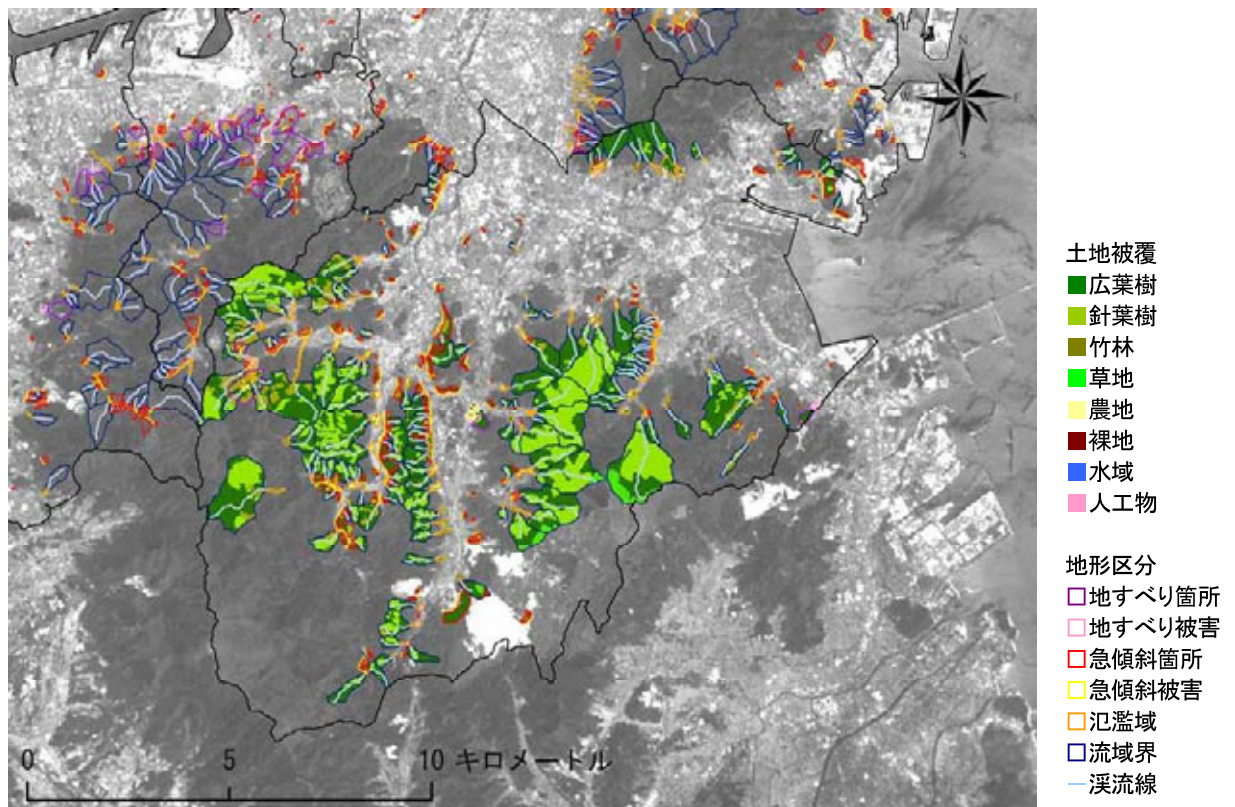


図 3.60 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 小倉南区）



図 3. 61 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 若松区）



図 3. 62 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 若松区）

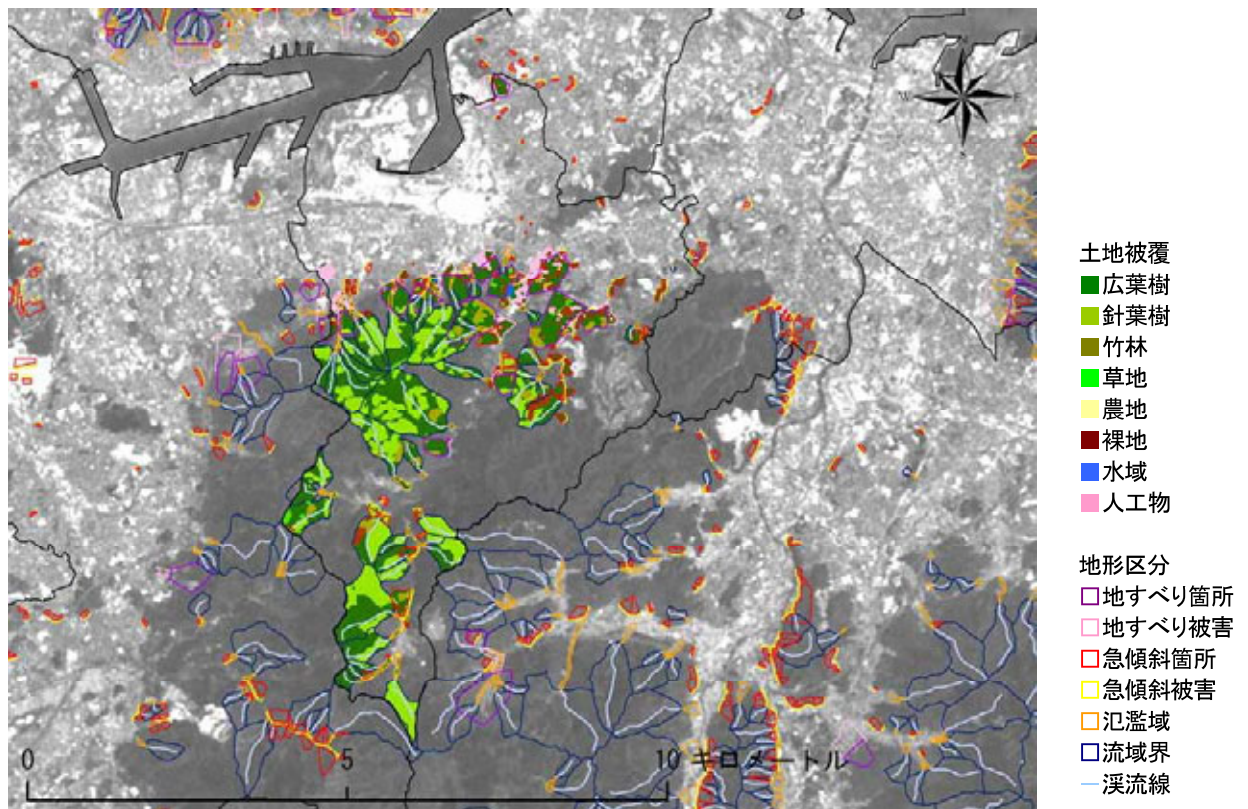


図 3. 63 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 八幡東区）

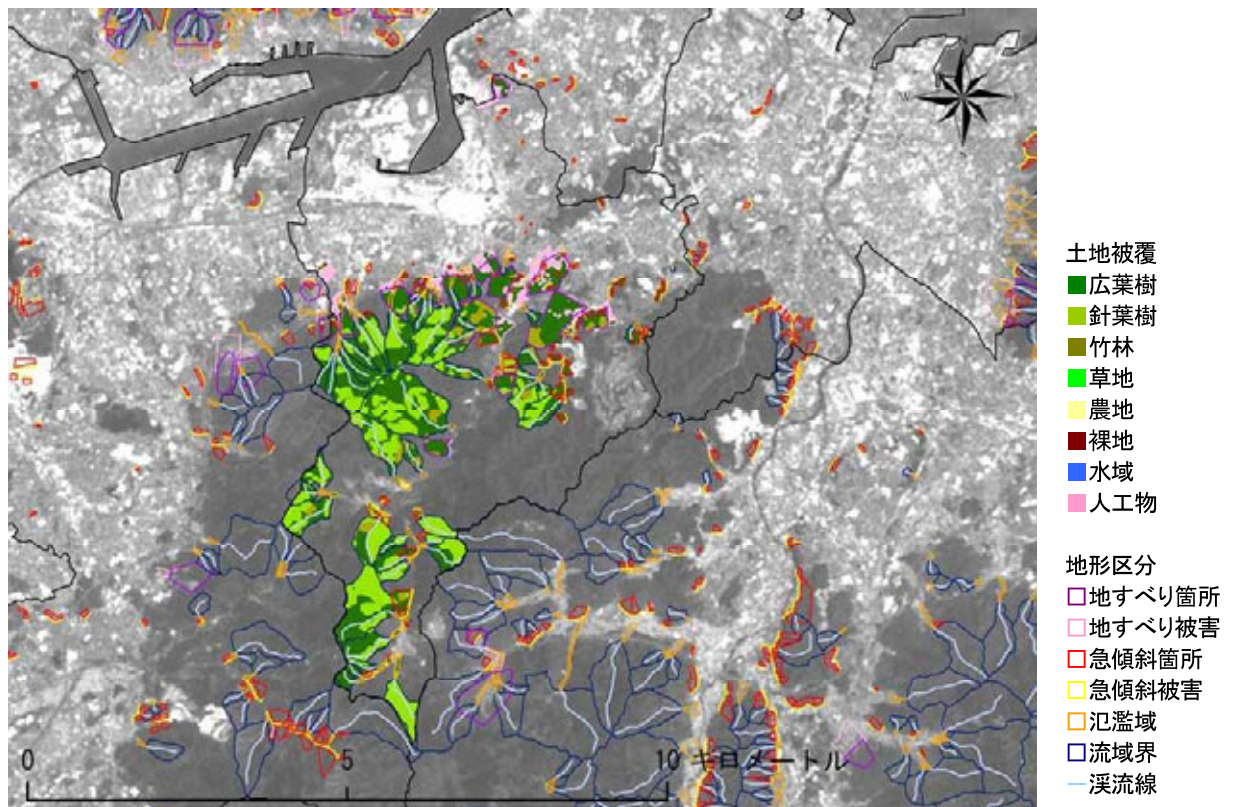


図 3. 64 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 八幡東区）

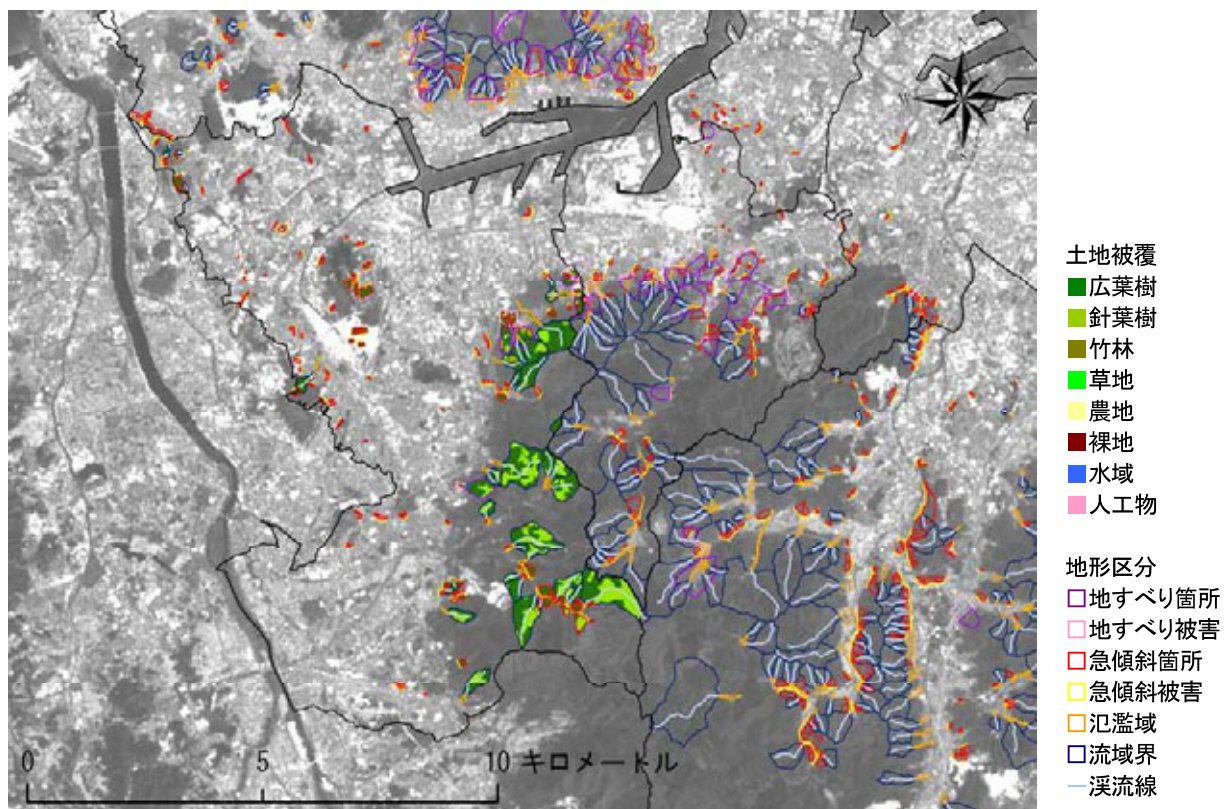


図 3.65 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 八幡西区）

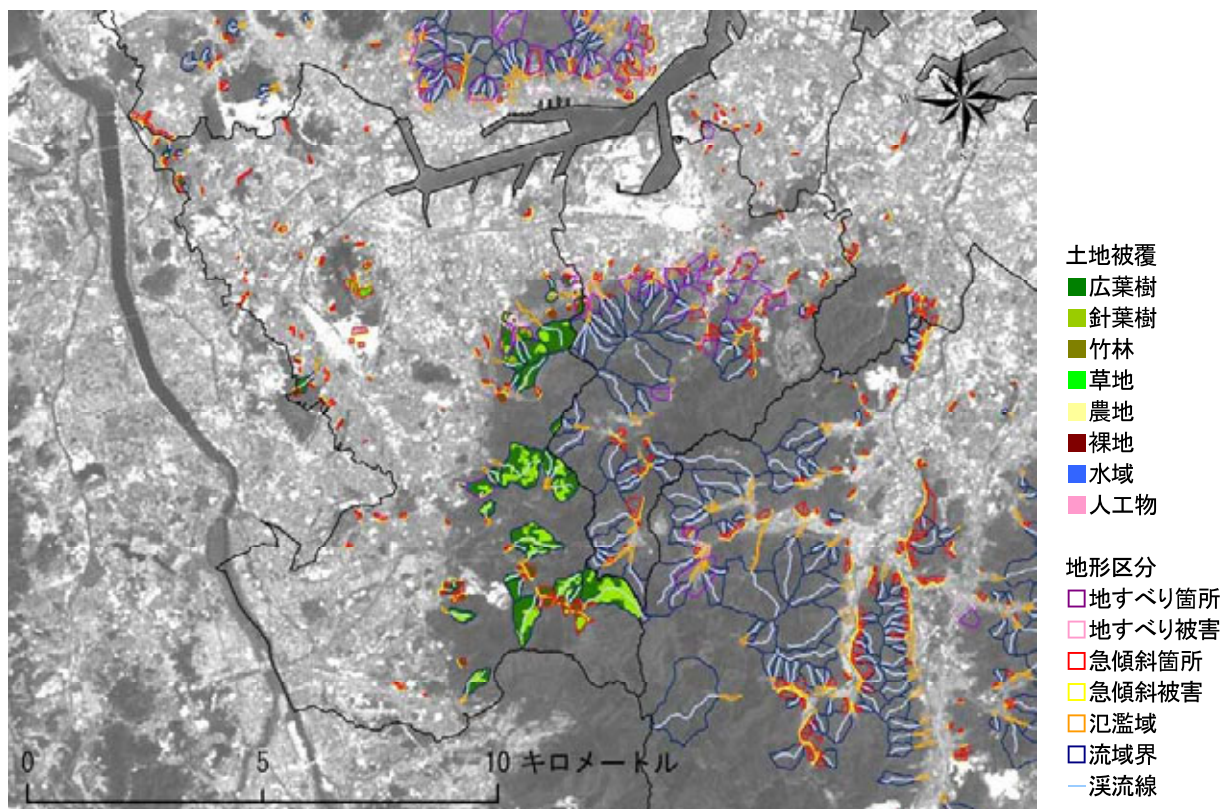


図 3.66 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 八幡西区）

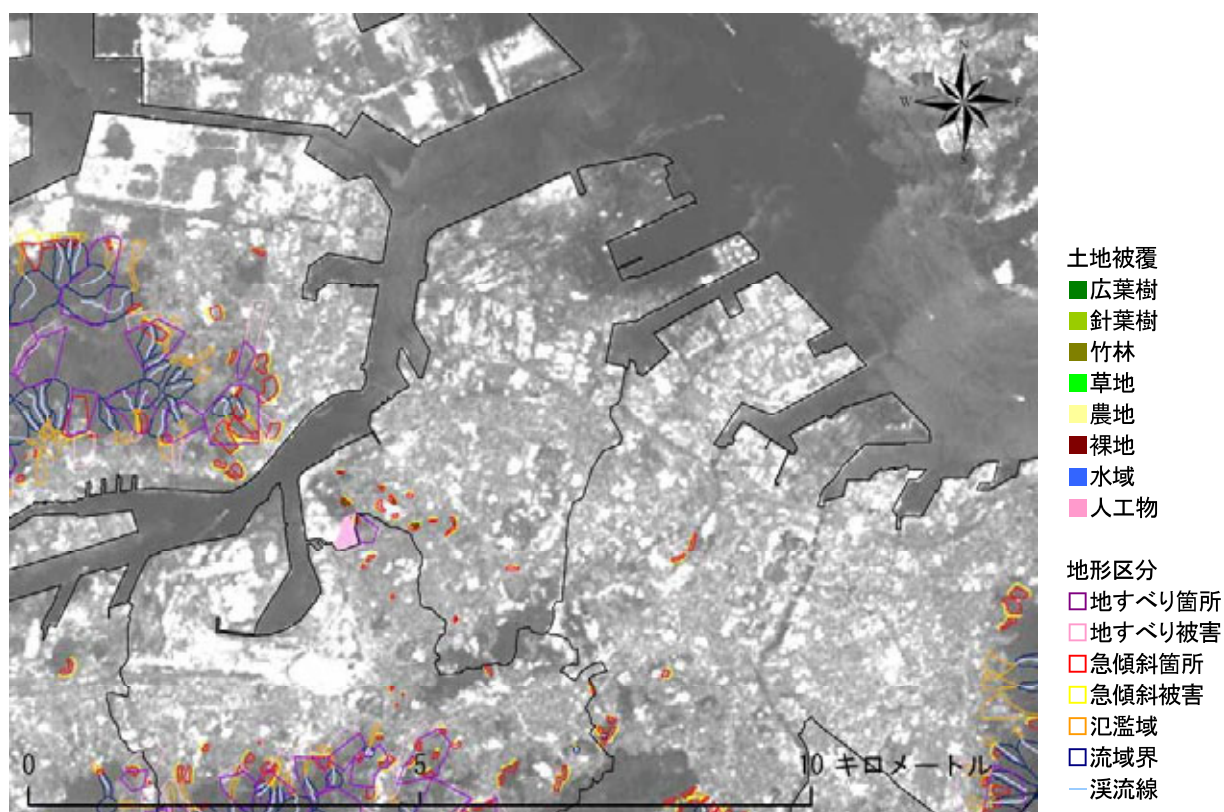


図 3. 67 地形分類エリアにおける土地被覆分類（1984 年 戸畑区）

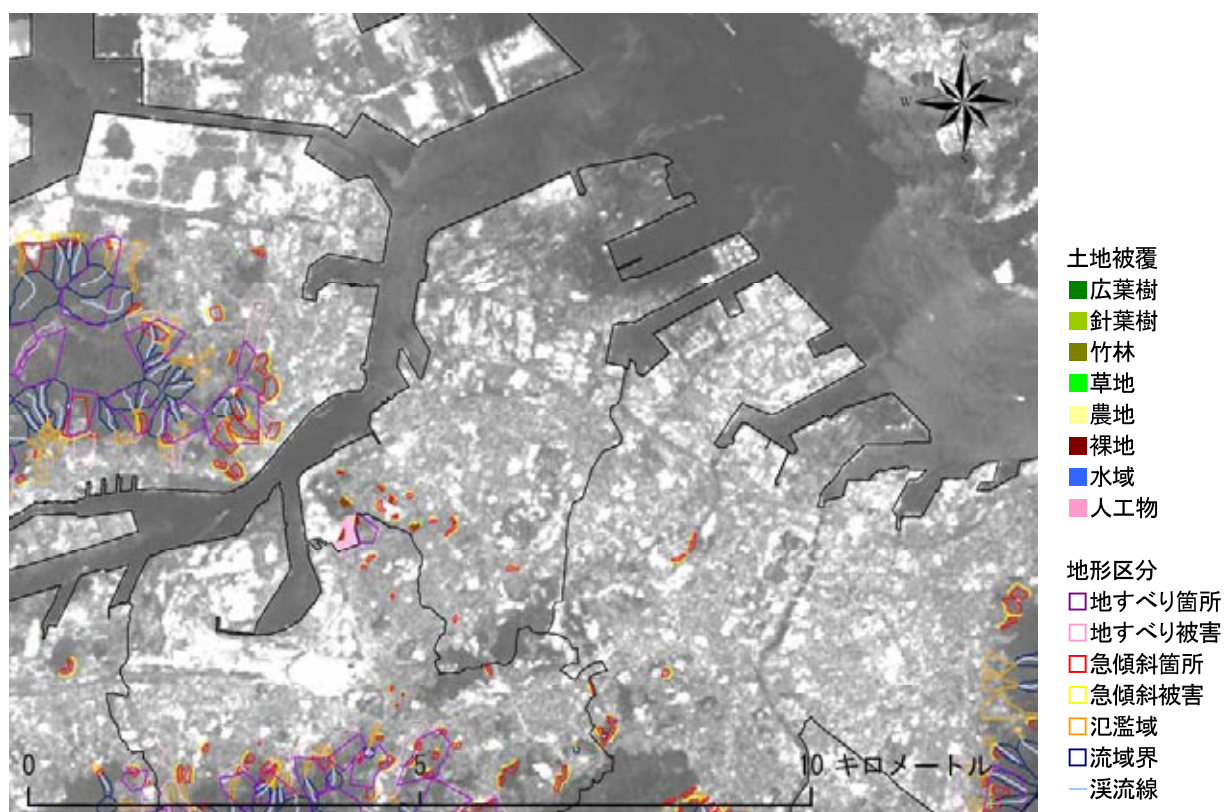


図 3. 68 地形分類エリアにおける土地被覆分類（2006 年 戸畑区）

3.10 公共公益施設別の分類

公共公益施設別の分類にあたっては、下表に示すように、緑被面積において学校を含む文化施設、緑被率において社会教育施設が最も高い結果となった。しかしながら、社会教育施設の平均面積は約0.3ha と非常に小規模であることから、公共公益施設別の評価を行うための空間解像度を満たしていない可能性が高い（本業務で利用した衛星画像の空間解像度 15-30m）。

表 3.24 公共公益施設別の緑被率の変遷

区分	1984 年		1995 年		2001 年		2006 年	
	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)	緑被面積(ha)	緑被率(%)
官公署等主要公共機関※1	2	11%	0	2%	1	4%	0	1%
	(2)	(11%)	(0)	(2%)	(1)	(4%)	(0)	(1%)
厚生施設※2	42	30%	22	16%	26	19%	18	13%
	(43)	(31%)	(23)	(16%)	(27)	(19%)	(18)	(13%)
社会教育施設※3	41	29%	30	21%	34	23%	30	21%
	(43)	(30%)	(32)	(22%)	(36)	(25%)	(32)	(22%)
処理施設※4	7	18%	2	6%	3	8%	2	5%
	(7)	(19%)	(3)	(6%)	(3)	(9%)	(2)	(5%)
文化施設※5	109	18%	64	11%	80	13%	72	12%
	(111)	(18%)	(66)	(11%)	(80)	(13%)	(73)	(12%)

※1 官公署等主要公共機関(郵便局、市役所、消防署、警察署)

※2 文化施設(幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学)

※3 厚生施設(養老院、保育園、病院、公共文化施設、体育館)

※4 社会教育施設(公民館、勤労会館、博物館、美術館、図書館、音楽ホール)

※5 処理施設(下水処理場)

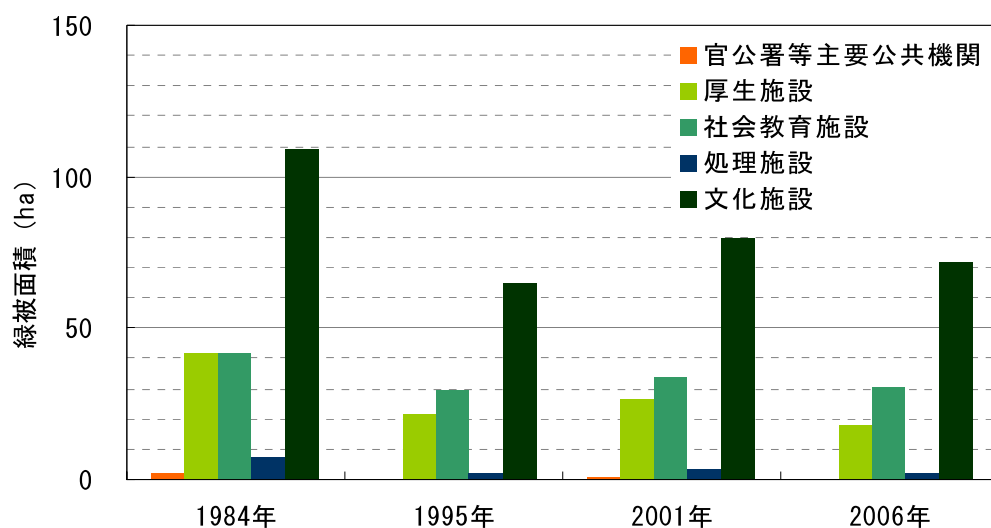


図 3.69 公共公益施設別の緑被面積の変遷

4.まとめ

4.1 北九州市における調査結果

本業務においては、リモートセンシングを活用することにより、緑被状況の調査をおこなった。過年度に蓄積された衛星画像を利用することで、過去から現在のみどりの変遷を調査するとともに、各種 GIS データを用いて緑被地を集計することによって、北九州市の緑被地の現況と傾向についてまとめた。

ただし、それぞれの年度において、センサ、撮影時期、撮影条件（大気条件など）が異なるため、推定可能項目や精度が異なる。そのため、傾向の取りまとめにおいては、1984 年から 2006 年にかけての全体の傾向についてまとめることとした。

表 4.1 主な傾向

項目	GIS データ	北九州市における傾向
土地被覆分類	町丁目界データ	○市全域の現状 ・土地被覆分類は、広葉樹が最も多く市域の約 38% 占めている。次いで、人工物の 36% となっている。 ・北九州市の緑被率は、約 58% である。他の政令指定都市と比較する場合、仙台市(79%)や京都市(74%)よりは低いものの、横浜市(31%)や名古屋市(25%)よりは高く、同県の福岡市(58%)と同程度で、比較的緑被地が多い。ただし、それぞれの都市における緑被率は、調査手法や定義が異なるため、一概に比較することはできないため、参考値として参照すること。 ○市全域の傾向 ・緑被率は、長期的な推移をみると市全域では 1987 年～2006 年の 22 年間で 4 ポイント減少し、短期的には 2001 年から 2006 年にかけては変動が少ない。 ・区分別にみると、広葉樹、針葉樹は 1984 年～1995 年にかけて減少しているが、1995 年～2006 年にかけて一貫して増加しており、山地の樹林地が保全されていることがうかがえる。 ・一方、農地と草地では 2001 年～2006 年にかけての減少が大きく、平地部での市街化が進んでいることがうかがえる。 ・1995 年～2006 年にかけての裸地の減少が著しい。 ○行政区別の現状 ・市全域の緑被率 58% に対し、緑被率が特に低い区は、戸畑区 8%、小倉北区 29% であった。両区は北九州市の中心機能が集約した市街化地域であり、被覆の割合も人工物が 70% 以上を占める。 ・緑被率が高い区は、小倉南区 74%、門司区 67% であった。両区は、広範囲な森林区域を含み、土地被覆の割合も広葉樹、または針葉樹が 50% 以上を占める。 ・竹林は小倉南区、八幡東区、若松区において広く分布している。 ・農地は、若松区、小倉南区において広く分布している。 ○行政区別の傾向 ・行政区別の緑被率は、1987 年～1995 年にかけて全地区で減少している。 ・1995 年～2006 年にかけての緑被率をみると、人工物の割合が 50% 以上を占める小倉北区と戸畑区では減少傾向にあり、市街化の進んでいる地区で緑被地が減少していることがうかがえる。 ・門司区と若松区、八幡東区では増加傾向、他の地区ではほぼ同水準で推移している。
緑被地別分類	町丁目界データ	・緑被率についてみると、市全域では 1987 年～2006 年の 22 年間で 4 ポイント減少している。 ・区分別にみると、樹林地は 1984 年～1995 年にかけて減少しているが、1995 年～2006 年にかけて一貫して増加しており、山地の樹林地が保全されていることがうかがえる。 ・一方、農地と草地では 2001 年～2006 年にかけての減少が著しく、平地部での市街化が進んでいることがうかがえる。 ・その他については 1984 年～1995 年にかけての増加が大きく、その後は緩やかに減少している。
行政区分上の分類	町丁目界データ	・全ての行政区において、1984 年～1995 年にかけて緑被率が減少している。 ・1995 年～2006 年の緑被率の増減をみると、小倉北区と戸畑区では減少傾向にあり、門司区と若松区、八幡東区では増加傾向、他の地区ではほぼ同水準で推移している。 ・2006 年の緑被率は戸畑区 8% と最も低く、八幡南区が 74% と最も多い。

	以下、土地被覆別分類によって得られた区ごとの特徴を示す。 ○門司区の現状 ・緑被率は、67%と市全域 58%に対し低い。門司区は、南北に伸びる広範囲な森林区域を含み、土地被覆の割合も広葉樹が 59%を占める。 ・市街地は、区東部と南東部に広がり、28%を占める。 ・農地は、区東部に一部広がり、3%を占める。 ○門司区の傾向 ・緑被率は、長期的にはほぼ同水準で推移している。短期的には、2001 年～2006 年にかけて 2 ポイント程度の増加傾向にある。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。裸地が市街地へ転用されている。 ○小倉北区の現状 ・緑被率は、29%と市全域 58%に対し低い。小倉北区は、南西部と東部に森林区域を含み、土地被覆の割合も広葉樹が 28%を占める。 ・市街地が広範に分布し、64%を占める。 ○小倉北区の傾向 ・緑被率は、長期的には減少傾向にあり、1984 年～2006 年にかけて 6 ポイント低下する。短期的には、2001 年～2006 年にかけて 1 ポイント程度の減少傾向にある。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。裸地や広葉樹が市街地へ転用されている。 ・区西部の比較的大きな緑被地が市街化している。 ・区東部の山麓部において市街地が外延化している。 ○小倉南区の現状 ・緑被率は、74%と市全域 58%に対し、市内で最も高い。小倉南区は、南部に広範囲な森林区域を含み、土地被覆の割合も広葉樹が 41%、針葉樹が 16%、竹林が 5%、つまり樹林地が全体の 62%を占める。 ・市街地が北部から西部にかけて分布しているものの、21%に留まる。 ○小倉南区の傾向 ・緑被率は、長期的には減少傾向にあり、1984 年～2006 年にかけて 6 ポイント低下する。短期的には、ほぼ同水準で推移している。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。裸地や広葉樹が市街地へ転用されている。 ・北部に形成される市街地が拡大傾向にあり、南部の農地においても市街化が進んでいる。 ○若松区の現状 ・緑被率は、52%と市全域 58%に対しやや低い。若松区は、中央部に竹林を含む森林区域を含み、広葉樹が 27%、竹林が 4%を占める。 ・農地は、西部に広がり、市域全体の 12%を占める。 ・市街地が東部にひろがり、市域全体の 41%を占める。 ・埋立地に比較的大きな野草が生育する草場が広がるものの、今後開発される可能性が高い。 ○若松区の傾向 ・緑被率は、長期的には減少傾向にあり、1984 年～2006 年にかけて 3 ポイント低下する。短期的には、ほぼ同水準で推移している。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。埋立地において水域が埋め立てられ、工業用地へ転用されている。 ○八幡東区の現状 ・緑被率は、64%と市全域 58%に対しやや高い。若松区は、南部に森林区域を含み、広葉樹が 41%、針葉樹が 17%を占める。 ・市街地が北部にひろがり、市域全体の 32%を占める。 ○八幡東区の傾向 ・緑被率は、長期的には減少傾向にあり、1984 年～2006 年にかけて 2 ポイント低下する。短期的には、2001 年～2006 年にかけて 2%程度の増加傾向を示す。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。 ○八幡西区の現状 ・緑被率は、44%と市全域 58%に対し低い。八幡西区は、南東部に森林区域を含み、広葉樹が 30%、針葉樹が 7%を占める。
--	--

		・市街地は南北にひろがり、市域全体の 47%を占める。 ○八幡西区の傾向 ・緑被率は、長期的には減少傾向にあり、1984 年～2006 年にかけて3ポイント低下する。短期的には、同水準で推移している。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。 ○戸畑区の現状 ・緑被率は、64%と市全域 58%に対し低い。 ・市街地は、広範囲に広がり、市域全体の 87%を占める。 ○戸畑区の傾向 ・緑被率は、長期的には減少傾向にあり、1984 年～2006 年にかけて 5 ポイント低下する。短期的にも 2001 年～2006 年にかけて 3 ポイント低下する。 ・市街地は、1984 年～2006 年にかけて増加傾向を示す。
用途地域区分における緑被率と内訳	用途地域	・用途地域区分の緑被率は住居系用途が最も高く、住居系用途の面積に対し緑被地が 22%を占めている。次いで工業系用途が、工業系用途の面積に対し緑被地が 13%となっている。商業系用途については、商業系の面積に対し緑被地が1%程度である。 ・住居系用途内には、都市公園や公共公益施設が多く含まれていることから、比較的高い緑被率となっている。工業系用途内では、工場敷地内の緩衝緑被地帯など民間敷地内緑被地が多く確保されていることがうかがえる。 ・1995 年～2006 年にかけての緑被率は、工業地域で2ポイント増加、住居地域で 17 ポイント減少、商業地域で3ポイント減少となっている。
防火・準防火地域における緑被率と内訳	防火・準防火	・防火・準防火地域における緑被率は 2%と少ない。 ・1984 年～2006 年の 22 年間で緑被率は 3%減少している。 ・防火・準防火地域は、用途地域の商業地域と重複するエリアが含まれ、商業地域同様に緑被率が低い。
標高別分類	標高	・標高 101m 以上の土地の緑被率は 90%以上であり、市街化の影響が少なく、緑被地が保全されていることがうかがえる。 ・1984 年～2006 年の 22 年間で緑被面積の増減は、標高 0～100m の土地で最も大きく、1984 年～1995 年にかけて減少し、1995 年から 2006 年にかけて増加傾向となっている。 ・2006 年における標高 0～100m の緑被地面積は、市全緑被地の 48%を占め、1984 年～2006 年の 22 年間で、1973ha 減少し、標高区分における割合も 3%減少する。これは、市全域の減少した緑被面積の 99%を占める。 ・2006 年における標高 101m以上の緑被地面積は、市全緑被地の 55%を占め、1984 年～2006 年の 22 年間で、同水準で推移している。
傾斜度別分類	傾斜度	・傾斜度が 11 度以上の土地では緑被率が 90%以上となっており、市街化に適さない傾斜度であり、市街化の影響が少ないことがうかがえる。 ・1984 年～2006 年の 22 年間で緑被面積の増減は、傾斜度が 0～10 度の土地で最も大きく、1984 年～1995 年にかけて減少し、1995 年から 2006 年にかけて増加傾向となっている。 ・2006 年における傾斜角度 0～10 度の緑被地面積は、市全緑被地の 40%を占め、1984 年～2006 年の 22 年間で、1863ha 減少し、標高区分における割合も 3%減少する。これは、市全域の減少した緑被面積の 93%を占める。 ・2006 年における傾斜角度 11 以上の緑被地面積は、市全緑被地の 63%を占め、1984 年～2006 年の 22 年間で同水準で推移している。
斜面方位別分類	斜面方位	・斜面区分別にみると、東斜面の緑被率が最も高い。 ・全ての傾斜区分で、1987 年～1995 年にかけて緑被率が減少し、1995 年～2006 年にかけてはほぼ同水準で推移している。
地形別分類	地すべり、土石流、急傾斜	それぞれの範囲で緑被を切り出すことによって防災面から緑被を検討可能な資料の作成を行った。
公共公益施設別の分類	公共公益施設	公共公益施設別の分類にあたっては、下表に示すように、緑被面積において学校を含む文化施設、緑被率において社会教育施設が最も高い結果となった。 ※しかしながら、社会教育施設の平均面積は約 0.3ha と非常に小規模であることから、公共公益施設別の評価を行うための空間解像度を満たしていない可能性が高い(本業務で利用した衛星画像の空間解像度 15～30m)。

以上の傾向を踏まえ、ブロックごとにみどりの検討をおこなった。このとき、ブロックは北九州市の公園配置計画における地区レベル（26 地区）を対象とすることとした。検討にあたっては、北九州市におけるみどりの量、みどりの質、みどりの課題を「みどりのカルテ」として取りまとめた。下表では、本業務において整理した課題を、環境、景観、レクリエーション、防災、その他の機能に区分のうえ、地区別の課題をまとめた。

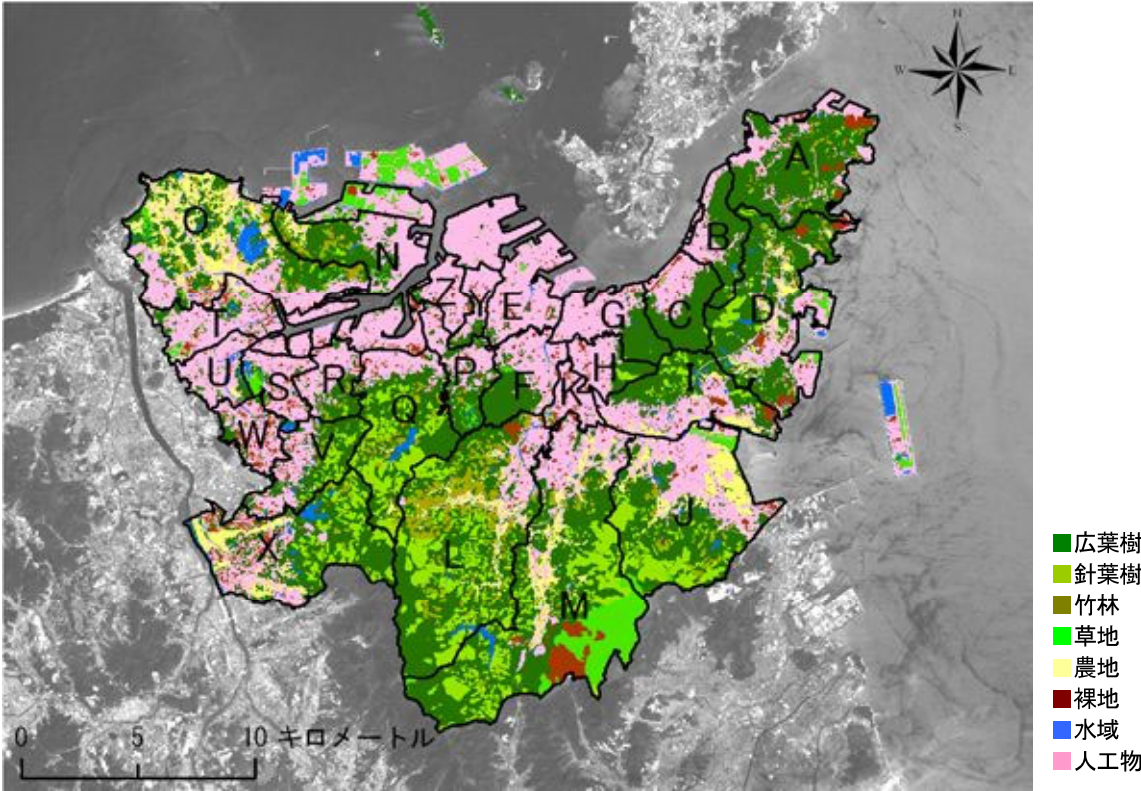


図 4.1 北九州市の公園配置計画における地区(26 地区)

表 4.2 地区別の課題(詳細については「みどりのカルテ」参照)

地区	環境	景観	レクリエーション	防災	その他
A		平地部後背の斜面地などの担保のない緑被地の保全が課題となる		平地部後背の斜面地にも住宅地が分布しており、近年では斜面住宅地の高齢者への配慮や防災対策が課題となっている	
B				災害が起こる可能性のある山麓地域にも住宅地が形成されており、防災対策や開発規制が課題となっている	市街地内の緑被地の保全が課題となる
C		風致地区内における市街化が進行しており、風致景観が損なわれるような市街化の進展が課題となる		災害が起こる可能性のある山麓地域にも住宅地が形成されており、防災対策や開発規制が課題となっている	市街地内の緑被地の保全が課題となる
D					平地部での緑被地や農地の保全が課題となる

E		風致地区においても緑が減少しており、景観とみどりの保全策について検討する必要がある	都市公園などと一体となったみどりの保全が求められる		市街地内の緑被地の保全が課題となる
F	山田緑被地には、北九州地域本来の植生である照葉樹林が残されており、周辺地区の緑被地とあわせた保全が課題となる				平地部の緑被地の減少が著しく、みどりの保全に向けた取り組みが課題となる
G		都市部におけるみどりの景観形成が課題となる市街地景観の背景となる足立山の自然環境の保全が課題となる		足立山麓の斜面地にも住宅地が分布し、近年では斜面住宅地の防災対策が課題となっている	市街地の緑被地の保全が課題となる
H		風致地区に指定されている地区においてもみどりの減少が進んでおり、景観形成を考慮した緑被地の保全が課題となる		足立山麓の斜面地にも住宅地が分布し、近年では斜面住宅地の防災対策が課題となっている	平地部では市街化が進み、みどりの大部分が失われている
I		市街地における緑被地の保全や斜面緑被地の保全が課題となる			市街地における緑被地の保全 地区南西部では、農地の宅地化が進んでいる
J		曾根干潟周辺の景観保全が課題となる 風致地区に指定されている斜面緑被地での市街化が進んでいる			市街地の緑被地の保全 農地の宅地化が進んでいる
K					市街地の緑被地の保全
L	竹林が山間部に放置された状態になっており、定期的な間伐を行うなど、適切な維持管理が課題となる				農地の宅地化による緑被地の減少が進んでいる
M		地区南部には大規模な採石場が位置しており、景観の修復やみどりの保全に向けた誘導策などが課題となる			市街地の緑被地の保全 農地の宅地化が進んでいる
N	多くの竹林が山間部に放置された状態になっており、定期的な間伐を行うなど、適切な維持管理が課題となる			高塔山麓の急斜面地に分布している住宅地の安全対策が課題となる	
O	多くの竹林が山間部に放置された状態になっており、定期的な間伐を行うなど、適切な維持管理が課題となる	風致地区に指定された地区や、山麓の斜面地においても市街化が進んでおり、緑被地の保全にむけた取り組みが課題となる			平地部の市街化が進み、青葉台・高須地区を中心に大規模な緑被地の減少があり、緑被地協定などによる、市街地におけるみどりの確保が課題となる
P		斜面地や風致地区内での景観形成とみどりの保全策の検討が課題		山麓の高台・斜面地に分布している住宅地での防災対策があげられる	市街化が進んでいる平地部での緑被地の確保が課題となる
Q	多くの竹林が山間部に放置された状態になっており、定期的な間伐を行うなど、適切な維持管理が課題となる			斜面住宅地の防災対策が課題となる	
R	多くの竹林が山間部に放置された状態になっており、定期的な間伐を行うなど、適切な維持管理が				

	課題となる				
S					地区内に点在していた緑被地の減少が進んでおり、市街地における緑被地の保全が課題となる
T					地区内での市街化が進行しており、緑被地の減少が著しく、市街地における緑被地の保全や、法の規制によるみどりの保護が課題となる。
U					緑被地の市街地への転換が著しく、住宅地の形成などに伴い緑被地が失われている。
V					市街化に伴う緑被地の減少が進んでおり、市街地での緑被地の保全が課題となる。
W		風致地区内においても近年緑被地の市街地への転換が進んでいる			市街地の拡大に伴う緑被地の減少が著しい
X					平地部の緑被地には法的な担保がないものが多く、市街化に伴う緑被地の減少が懸念される
Y					市街地における緑被地の保全にむけて、緑被地協定の締結などの取り組みを検討することが課題となる
Z				牧山周辺地区の高台・斜面地に分布している住宅地での防災対策があげられる	市街地における緑被地の保全にむけて、緑被地協定などの取り組みを検討することが課題となる

北九州市 緑の課題総括図

